

刑法問答類編

5/12

館書圖京東

函六三 門新

架九 部一

號 類

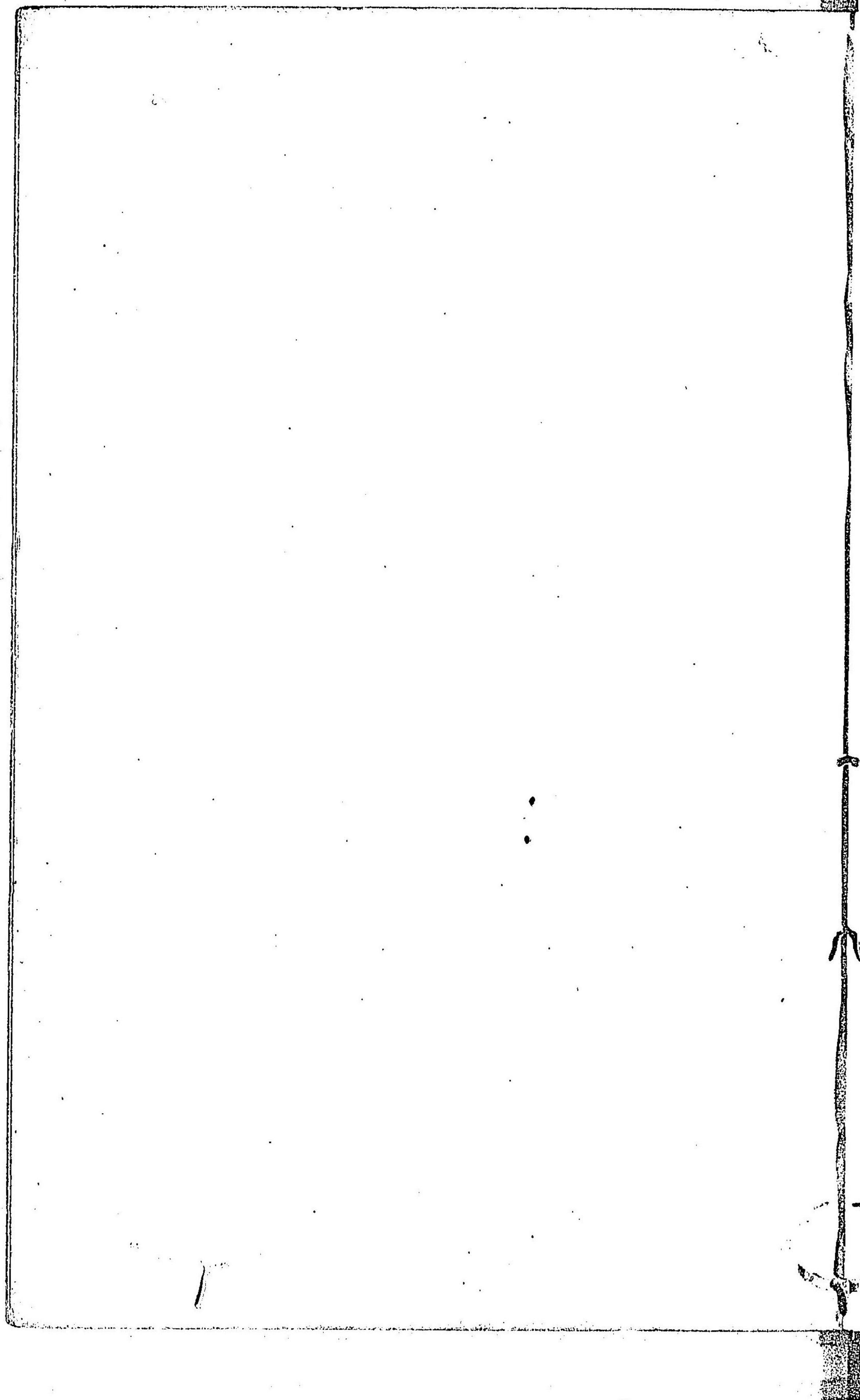
特29
126

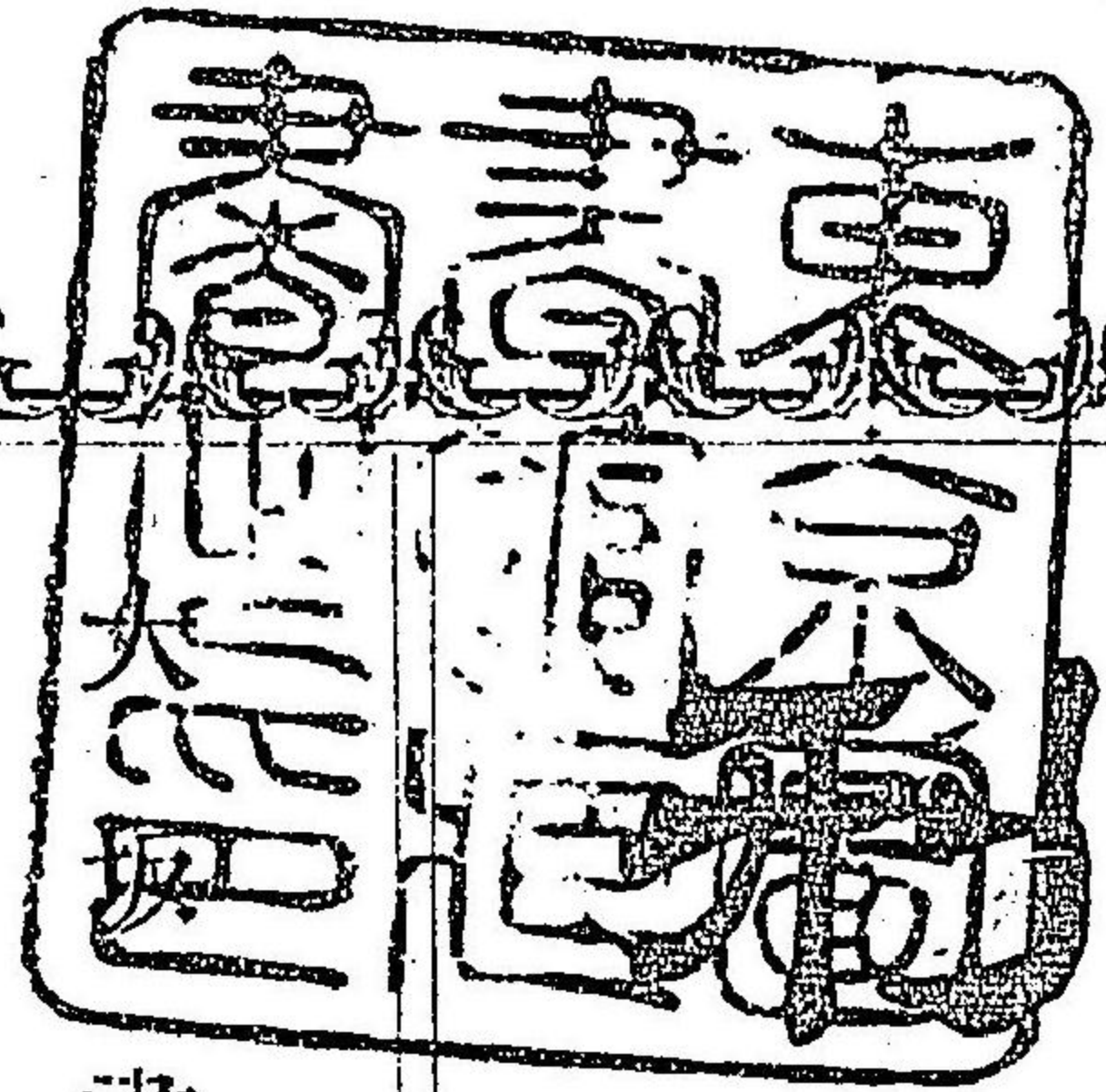
刑
法
問
答
卷
一

山口俊一編纂

明治十三年八月刊行

刑
法
問
答
卷
一





山口俊一編纂

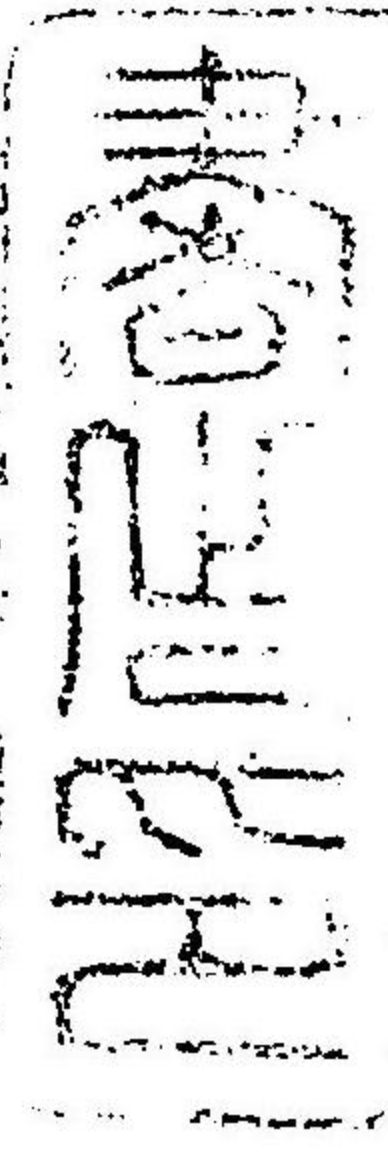
恣問答

書林

吉岡氏出版

緒言

人民法律ヲ記憶セサルヘカラサルハ言ヲ俟タ
スト雖其法例ノ夥多ナル一々之ヲ熟知スル
ノ難キヨリ遂ニ思ハサルノ罪名ヲ蒙リ終身汚
名ヲ受クル者蓋シ尠ナシトセ余之ヲ慮フル
久シ矣今回政府新刑法ヲ頒布セラレタルニ
際シ其第壹編ヨリ四編ニ至ル毎壹編ヲ以テ一
冊子トナシ一々問答ニ區別シ以テ聊看者刑律



スルノ便ニ供セントス

山口俊一誌

凡例

- 一 此書ハ刑法每一ク條ヲ以テ概テ一問題トナスト雖モ其箇條ニ因リ同意數派ヲ要スル者ハ之ヲ分ツテ二三ノ問題ニ區別ス
- 一 書中何編何章何節ハ看者參照ノ便ヲ圖リ皆刑法ノ儘ヲ付記ス
- 一 書中問答ノ區別ヲ容易ナラシムル爲メ○△ノ標ヲ以テシ○ヲ以テ問標トナシ△ヲ以テ答標トナス
- 一 該書一冊子毎ニ初メニ於テ其目錄ヲ付記シ以テ搜索ニ便ス

明治十三年八月

編者識

刑法問答卷之一目錄

第一編 總則

第一章 法例

(自第一條至第五條)

第二章 刑例

(自第六條至第六十五條)

第一節 刑名

第六條ヨリ

第二節 主刑處分

第十二條ヨリ

第三節 附加刑處分

第三十一條ヨリ

第四節 徵償處分

第四十五條ヨリ

第五節 刑期計算

第四十九條ヨリ

第六節 假出獄

第五十三條ヨリ

第七節 期滿免除

第五十八條ヨリ

第八節 復權

第六十三條ヨリ

第三章 加減例

(自第六十六條至第七十四條)

第四章 不論罪及ヒ減輕 (自第七十五條至第九十條)

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕 第七十五條ヨリ

第二節 自首減輕 第八十五條ヨリ

第三節 酌量減輕 第八十九條ヨリ

第五章 再犯加重 (自第九十一條至第九十八條)

第六章 加減順序 (第九十九條)

第七章 數罪俱發 (自第一百條至第一百四條)

第八章 數人共犯 (自第一百四條至第一百十條)

第一節 正犯 第一百四條ヨリ

第二節 從犯 第一百四條ヨリ

第九章 未遂犯罪 (自第一百一十條至第一百三條)

第十章 親族例 (自第一百四條至第一百五條)

刑法問答卷之一

山口俊一編纂

刑法第一編 總則

第一章 法例

○凡法律ニ於テ罰スヘキ罪ヲ大別シテ幾種トナスヤ

△重罪輕罪違警罪ノ三種ニ區別ス

○法律ニ正條ナキモノハ如何

△法律ニ正條ナキモノハ假令何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルヲ得ス

○此法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及スヲ得サルハ勿論ナリト雖モ

若シ所犯頒布以前ニ有テ未タ判決ヲ經カル者ハ如何

△所犯此刑法頒布以前ニ有テ未タ判決ヲ經カル者ハ新舊兩法ヲ比較

シ輕キニ從テ處斷ス

二 ○此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スルヲ得ルヤ

△此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論スヘキ者ニ適用スルヲ得ス

○此刑法ニ正條ナシシテ他ノ法律規則ニ刑法アル者如何

△各其法律規則ニ從フテ處分ス

○若シ他ノ法律規則ニ別ニ總則ヲ掲ケサル者如何

△他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ總テ此刑法ノ總則ニ從ル

第二章 刑例

第一節 刑名

○凡ソ刑名ヲ大別シテ如何

△主刑及ヒ附加刑トナス

○重罪ノ主刑トハ何々ヲ云フ

△(一)死刑 (二)無期徒刑 (三)有期徒刑 (四)無期流刑 (五)有期流刑

(六)重懲役 (七)輕懲役 (八)重禁獄 (九)輕禁獄ノ九刑ヲ云フ

○輕罪ノ主刑トハ何々ヲ云フ

△(一)重禁錮 (二)輕禁錮 (三)罰金ノ三刑ヲ云フ

○違警罪ノ主刑トハ何々ヲ云フ

△(一)拘留 (二)科料ノ二刑ヲ云フ

○附加刑トハ何々ヲ云フ

△(一)剝奪公權 (二)停止公權 (三)禁治產 (四)監視 (五)罰金 (六)沒収

ノ六刑ヲ云フ

第二節 主刑處分

○死刑トハ如何

四 △死刑ハ司法卿ノ命令ヲ待テ規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ絞首ス

○死刑ヲ行フテ禁スルノ日如何

△大祀、令節、國祭、ノ日トス

○死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女若シ懐胎ナル時如何

△其執行ヲ停止シ分娩ノ後一百日ヲ經ルニ非ラサレハ刑ヲ行ハス

○死刑ノ違駭ヲ親族故舊請フ者アル時如何

△親族故舊ノ請フ者アソハ之ヲ下付スト雖和式ヲ用ヒテ葬ムルヲ

禁ス

○徒刑トハ如何

△有期無期ヲ分クテ島地ニ發遣シ定役ニ服セシムヲ云フ

○有期徒刑ノ年限ハ如何

△十二年以上十五年以下トス

○徒刑ノ婦女ハ如何

△嶋地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服セシム

○徒刑ノ囚六十歳ニ滿ツル者如何

△通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服セシム

○流刑トハ如何

△有期無期ヲ同ハス嶋地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セシメス

○有期流刑ノ年限ハ如何

△十二年以上十五年以下トナス

○無期流刑ノ四五年ヲ經レハ如何

△行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルヲ

五

ヲ得ル

六

○有期流刑ノ囚三年ヲ經レハ如何

△行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ地ヲ限リ島地ニ於テ居住セシムルヲ
ヲ得ル

○懲役トハ如何

△内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服セシムルヲ云

○懲役ノ囚年齢六十歳ニ滿ツル者如何

△通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服セシム

○重懲役ノ年限ハ如何

△九年以上十一年以下トス

○輕懲役ノ年限ハ如何

△六年以上八年以下トス

○禁獄トハ如何

△内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セシメサルヲ云

○重禁獄ノ年限ハ如何

△九年以上十一年以下トス

○輕禁獄ノ年限ハ如何

△六年以上八年以下トス

○禁錮トハ如何

△禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

○禁錮ノ年限ハ如何

△禁錮ハ重輕ヲ分テ十一月以上五年以下トシ各本條ニ因テ其長短
ヲ區別ス

○定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ如何

七

△監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス

八

ト雖此若シ現役百日以内ノ者ハ囚人ニ給セス

○罰金ノ金員ハ如何

△二圓以上トナシ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

○罰金上納ノ期限ハ如何

△裁判確定ノ日ヨリ一月限ニ納完セシム若シ限内納完セサルモノハ

金一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿タサル者ト雖此仍

ホ一日ニ計算ス

○罰金ヲ禁錮ニ換フルハ如何

△更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求メニ因リ才判官之ヲ命スト雖此其期

限二年ヲ過タルヲ得ス

○罰金ヲ禁錮ニ換ヘタルキ其限内若シ罰金ヲ上納シタルキハ如何

△已ニ經過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス親族其他代テ罰金ヲ納

メタル所モ亦同シテ禁錮ヲ免ス

○拘留トハ如何

△拘留所ニ留置シ定役ニ服セシメサルヲ云

○拘留ノ刑期ハ如何

△一日以上十日以下トシ仍ホ各本條ニ因テ其長短ヲ定ム

○科料ノ金額ハ如何

△五錢以上壹圓九拾五錢以下トシ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

○科料ヲ上納スル期限ハ如何

△裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納メシム若シ限内納完セサル者ハ壹圓

ヲ一日ニ折算シ拘留ニ換フ其壹圓以下ト雖此尙一日ニ計算ス

第三節 附加刑處分

九

○剝奪公權トハ如何

△(一)國民ノ特權(二)官吏トナルノ權(三)勳章年金位記賞号恩給ヲ有
 スルノ權(四)外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權(五)兵籍ニ入ルノ權(六)裁
 判所ニ於テ單ニ事實ヲ陳述スルノ外証人トナル權(七)親族ノ許可
 チ得テ子孫ノ爲ニスルノ外後見人トナルノ權(八)分散者ノ管財人
 トナリ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權(九)學校長及ヒ教師
 學監トナルノ權等ノ九權ヲ剝奪スルヲ云フ

○重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者公權ハ如何

△重罪輕罪ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告セズシテ終身公權ヲ剝奪ス

○禁錮ニ處セラレタル者公權ハ如何

△別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フヲ停
 止ス

○輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者公權ハ如何

△別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限間公權ヲ行フヲ停止ス

○主刑ヲ免シテ止マ監視ニ付シタル者公權ハ如何

△監視ニ付シタル者ハ其期限間公權ヲ行フヲ停止ス

○重罪ノ刑ニ處セラレ、者其刑期間自ラ財産ヲ主治スルヲ得ルヤ

△別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ主治スルヲ禁

ズ

○流刑ノ囚人幽閉ヲ免セラレタル者ハ自ラ其財産ヲ主治スルヲ得
 得ルヤ

△行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得ル

○重罪ノ刑ニ處セラレ、者ハ必ス監視ニ付スルヤ

△別ニ宣告ヲ用ヒスシテ各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ
 付ス

- 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告スルヤ
- △ 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告セスト雖モ各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルコトヲ得ス
- 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者之ヲ監視ニ付スルヤ
- △ 別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ス
- 監視ノ期限未起算スル法如何
- △ 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算スト雖モ若シ主刑ノ期滿免除ヲ得タルハ其捕獲就キタル日ヨリ起算ス
- 若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時監視ヲ起算スルハ如何
- △ 其裁判確定之日ヨリ起算ス
- 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ監視ヲ免スルコトアルヤ
- △ 其情狀ニ因テ行政ノ處分ヲ以テ假令ニ之ヲ免スルコトヲ得ル

- 附加シ罰金ニ宣告ヲ用ヒルヤ
- △ 之ヲ宣告シ若シ一月内ニ納完セサル者ハ金一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮ニ換シ主刑滿期ノ後之ヲ執行ス
- 宣告シ夫官ニ沒収スル物件ハ如何
- △ (一) 法律ニ於テ禁制シタル物件 (二) 犯罪ノ用ニ供シタル物件 (三) 犯罪ニ因テ得タル物件ナリト雖モ若シ法律規則ニ於テ別ニ沒収ノ例ヲ定メタル者ハ各法律規則ニ從テ
- 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒収スルヤ
- △ 之ヲ沒収スルト雖モ若シ犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯罪人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキハノ外之ヲ沒収スルコトヲ得ス

○刑事ニ係ル裁判ノ費用ハ如何

△其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定メ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科

ス

○犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラレ、ニ於テハ被害者ニ對シ贓物ノ
還給損害ノ賠償等ヲ免カル、コト得ルヤ

△犯人刑ニ處セラレ又ハ放免ヲ受クルト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓
物ノ還給損害ノ賠償ヲ免カル、コト得ス

○數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償等ハ如何

△各共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

○裁判ノ費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ何レノ裁判所ニ於テ之ヲ審判
スルヤ

△被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルト雖モ若シ贓

物犯人ノ手ニアルニ於テハ被害者ノ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被
害者ニ還付ス

第五節 刑期計算

○刑期ヲ計算スルニ一日又ハ一月或ハ一年ト稱スル法如何

△一日ト稱スルハ廿四時ヲ以シ一月トハ三十日ヲ以シ一年ト稱スル

ハ曆ニ從ル

○受刑ノ初日及ヒ放免ノ日ハ時間ヲ以テ計算スルヤ

△受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セ
ス

○刑期ヲ計算スルハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スト雖モ若シ犯人上訴ヲ
ナシタル片ハ如何

△犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル片ハ前判宣告ノ日ヨリ起算スト

- 雖是若シ其上訴不當ナルモ、後判宣告ノ日ヨリ起算ス
- 檢察官ノ上訴係ルモノ其刑期ヲ計算スル法如何
- △ 其上訴正當ナルト否トヲ論セス前判宣告ノ日ヨリ起算ス
- 上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者其刑期ヲ起算スルハ如何
- △ 保釋又ハ責付中ノ日數ヲ除キ刑期ヲ算入セス
- 犯人刑期限内逃走シ再ヒ捕獲就キタルハ如何
- △ 其逃走ノ日數ヲ扣除シ前後受刑ノ日數ヲ計算ス
- 第六節 仮出獄
- 重罪又ハ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル時如何
- △ 其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以假リニ出獄ヲ許ス

- 無期徒刑ノ囚獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アルハ如何
- △ 十五年ヲ經タル後行政ノ處分ヲ以テ仮リニ出獄ヲ免スルヲ得ル
- 無期流刑ノ囚人獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アルハ如何
- △ 五年ヲ經過シタル後行政ノ處分ヲ以幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルノ外別ニ出獄ノ例ヲ用ヒス
- 有期流刑ノ囚獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル時如何
- △ 三年ヲ經タルノ後行政ノ處分ヲ以幽閉ヲ免シ嶋地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルノ外別ニ出獄ノ例ヲ用ヒス
- 徒刑ノ囚仮出獄ヲ許サレタルハ如何
- △ 仮リニ出獄ヲ許サル、ト雖モ仍ホ島地ニ於テ居住セシム
- 假出獄ヲ免セラレタルモノハ治産ノ禁ヲモ亦免セラル、トアルヤ
- △ 行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得ルト雖モ本刑期

限内別ニ定メタル監視ニ付ス

○仮出獄中更ニ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル時如何

△直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

○刑期限内更ニ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル者ト雖モ仮リニ出獄ヲ

許サル、コトヲ得ルヤ

△仮リニ出獄ヲ許サル、コトヲ得ス

第七節 期滿免除

○期滿免除トハ何如

△刑ノ執行ヲ免カレタルモノ法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ

期滿免除ヲ得ルヲ云

○死刑ハ幾期限ヲ經ルニ因テ期滿免除ヲ得ルヤ

△三十年ナリ

○無期徒刑及ヒ無期流刑ハ幾期限ヲ經ルニ因テ期滿免除ヲ得ルヤ

△二十五年ナリ

○有期徒刑有期流刑ハ如何

△二十年ナリ

○重懲役重禁獄ハ幾期限ヲ經ルニ因テ期滿免除ヲ得ルヤ

△十五年ナリ

○輕懲役輕禁獄ハ幾期限ヲ經ルニ因テ期滿免除ヲ得ルヤ

△十年ナリ

○禁錮罰金ハ幾年期ヲ經ルニ因テ期滿免除ヲ得ルヤ

△七年ナリ

○拘留科料ハ幾期限ヲ經ルニ因テ期滿免除ヲ得ルヤ

△一年ナリ

○剝奪公權停止公權及ヒ監視ト雖ヒ期滿免除テ得ルヤ
△期滿免除ヲ得ルコトナシト雖ヒ附加刑ニ係ル罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除テ得ル

○沒収ト雖ヒ期滿免除テ得ルヤ

△五年ヲ經ルニ因テ期滿免除テ得ルト雖ヒ法律ニ於テ禁制物ニ係ルモノハ期滿免除ノ限ニアラス

○期滿免除ハ刑ノ執行ヲ免レタル日ヨリ起算スト雖ヒ若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタルト如何

△其逃走ノ日ヨリ起算シ欠席裁判ニ係ルモノハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

○刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタルトハ期滿免除ヲ起算スル法如何

△最終ニ逮捕ノ命令狀ヲ下シタル日ヨリ起算ス

第八節 復權

○公權ヲ剝奪セラレタル者ト雖ヒ之ヲ復スルコトアルヤ

△主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得ル

○主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ幾年限ヲ經レハ公權ヲ復スルコトヲ得ルヤ

△監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經ルノ後將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得ル

○大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者如何

△直ニニ公權ヲ復スルコトヲ得ル

○特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者如何

△赦狀中復權ノ旨ヲ明記スルニ非ラサレハ公權ヲ復スルヲ得ス

○赦ニ因テ公權ヲ復シタル者監視ヲモ亦免カル、ヲ得ルヤ

△赦ニ因テ公權ヲ復シタル者ハ自ラ監視ヲ免カル、モノトス

○復權ノ命令ハ如何。

△救裁ニ非ラサレハ之ヲ得ヘカラス

第三章 加減例

○凡法律ニ於テ刑ヲ加重減輕スルヲ得ルヤ

△法律ニ於テ刑ヲ加重減輕スヘキハ罪ノ等級ニ照シテ加減スルヲ

ヲ得ルト雖モ加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス

○重罪ノ刑ニ於テ罪ノ等級ニ照シテ加減スルヲ得ル其等級ハ如何

△(一)死刑(二)無期徒刑(三)有期徒刑(四)重懲役(五)輕懲役ノ五刑

ナリトス

○國事ニ關スル重罪ノ刑ニ於テ罪ノ等級ニ照シテ加減スルヲ得ル
其等級如何

△(一)死刑(二)無期流刑(三)有期流刑(四)重禁獄(五)輕禁獄ノ五刑
トナス

○輕懲役ニ該ル者罪ヲ減輕スヘキハ如何

△二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等トナス

○輕禁獄ニ該ルモノ減輕スヘキハ如何

△二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ所スルヲ以テ一等トナス

○禁錮及ヒ罰金ニ該ルモノ減輕スヘキハ如何

△各本條ニ記載スル刑期又ハ金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト

シ其加重スヘキハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等トナス

○輕罪ノ刑ヲ加重スヘキハ加テ重罪ニ入ルヲ得ルヤ

△輕罪ノ刑ハ加テ重罪ニ入ルヲ得スト雖ヒ禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得ル

○禁錮ヲ減輕スヘキニ因テ減盡シタルキハ如何

△禁錮ヲ減シ盡シタルキハ拘留ニ處ス

○罰金ヲ減盡シタルキハ如何

△罰金ヲ減輕スヘキニ因テ減盡シタルキハ科料ニ處ス

○禁錮ヲ減シテ其短期十日以下罰金ヲ減シテ寡數壹圓九十五錢以下ニ及フキハ如何

△禁錮ヲ減シテ其短期十日以下ニ及ブキハ拘留ニ處スルヲ得罰金ヲ減シテ寡數壹圓九十五錢以下ニ及フキハ科料ニ處スルヲ得

○拘留科料ニ該ルモノ加減スヘキキハ如何

△禁錮罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以一等トナス

○違警察ノ刑ヲ加重シテ輕罪ニ入ルヲ得ルヤ

△違警察ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得スト雖ヒ拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルヲ得減シテ一日以下ニ降スヲ得ス科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルヲ得減シテ五錢以下ニ降スヲ得ス

○禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ若シ其期限ニ零數ヲ生シタルキ如何

△其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿マサルキハ之ヲ除棄ス

○附加ノ罰金ヲ加減スル法如何

△主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等トナシ若シ減盡シタルキハ止マ主刑ノミ科斷ス

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

○抗拒スヘカシサル強制ニ遇ヒ罪ヲ犯スノ意ナクシテ止ムヲ得ス

爲シタル所爲ハ如何

△不論罪ニ從ル

○天災又ハ意外ノ變ニ因リ避クヘカラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ因テ犯シタル罪ハ如何

△不論罪ニ從ル

○本屬長官ノ命令ニ從リ其職務ヲ以爲シタル所爲ハ如何

△其罪ヲ問ハス

○罪ヲ犯スノ意ナクシテ爲シタル者ハ如何

△罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ不論罪ニ從ルト雖モ別ニ法律規則ニ於テ罪名ヲ定メタルモノハ其法律規則ニ從テ處斷ス

○罪トナルヘキ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ如何

△不論罪ナリ

○罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者如何

△犯ス時之ヲ知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルヲ得ス

○法律規則ヲ知ラスシテ犯シタル者如何

△法律規則ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯スノ意ナシト爲スヲ得ス

○罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者如何

△不論罪ニ從ル

○罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿タサル者如何

△不論罪ニ從ルト雖モ滿八歳以上ノ者ハ其情狀ニ因リ滿十六歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得ル

○罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿タサル者如何

△其所爲是非ヲ弁別シタルト否トヲ審按シ弁別ナクシテ犯シタルハ不論罪ニ從ルト雖モ清狀ニ因リ滿廿歳ニ過キサル時間之ヲ懲治

場ニ留置スルヲ得ル

○罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳以下ナル者若シ知覺是非弁別アリテ犯シタルハ如何

△其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

○罪ヲ犯ス時滿十六歳以上廿歳ニ滿タサル者如何

△其罪ヲ宥恕シテ本條ニ一等ヲ減ス

○暗啞人罪ヲ犯シタルハ如何

△暗啞人罪ヲ犯セハ不論罪ニ從ルト雖モ情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得ル

○罪ヲ犯シタルハ滿十六歳以上廿歳ニ滿タサル者違警罪ヲ犯シタルハ如何

△其罪ヲ宥恕セス

○滿十二歳以上十六歳ニ滿タサル時違警罪ヲ犯シタル者如何

△其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

○罪ヲ犯ス時滿十二歳ニ滿タサル者又ハ暗啞者ハ如何

△不論罪ニ從ル

○罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者如何

△本刑ニ一等ヲ減スト雖モ若シ罪條謀殺故殺等ニ係ル者ハ自首減輕ノ法ヲ用ヒス

○財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタルハ如何

△自首減輕ノ外仍ホ本罪ニ二等ヲ減ス若シ其全部ヲ償還セズシテ半數以上ヲ償還シタルニ於テハ本刑ニ一等ヲ減ス

○財産ニ對スル罪ヲ犯シ官ニ自首セズシテ被害者ニ首服シタル者如何

△官ニ自首シタルニ同シク減等ノ例ヲ用ユ
第三節 酌量減輕

○重罪又ハ輕罪或ハ違警罪ヲ犯シ所犯情狀原諒スヘキ者如何

△重罪輕罪違警罪ヲ分タス情狀ヲ酌量シテ本罪ヲ減輕スルヲ得ル

○法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕スヘキ者其情狀ニ因リ亦酌量スヘキハ如何

△仍ホ之ヲ減罪スルヲ得ル

○酌量減輕スヘキ者ハ本刑ヨリ凡何等ヲ減スルヲ得ルヤ

△本刑ニ一等又ハ二等ヲ減輕ス

第五章 再犯加重

○先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル者其罪ヲ加重スル法如何

△各本刑ニ一等ヲ加重ス

○先ニ重罪或ハ輕罪ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ如何

△各本刑ニ一等ヲ加フ

○先キニ違警察ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時如何

△本刑ニ一等ヲ加フト雖モ一年內再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地內ニ於テ犯シタルモ非ラサレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

○再犯加重トハ如何

△初犯ノ裁判確定ノ後再ヒ罪ヲ犯シタルモ非ラサレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

○期限內再ヒ罪ヲ犯スニ因リ又刑ヲ宣告シタルモ如何

△先ツ其定役ニ服スヘキ者ヲ執行シ定役ニ服セサルモノヲ後ニスト雖モ若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ルモ又ハ共ニ定役ニ服

セサル刑ニ該ル片ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス

○若シ初犯再犯共ニ罰金科料ニ該ル者之ヲ徴収スル先後如何

△其順序ニ拘ハラズ各之ヲ徴收ス

○陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル時ハ再犯ヲ以テ論スルヤ

△初犯ノ非常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非ラサレハ再犯ヲ以テ論スル
一ヲ得ス

○大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ如何

△再犯ヲ以テ論スル一ヲ得ス

○三犯以上ノ者加重ノ法如何

△三犯以上ノ者ト雖モ其罪ヲ加重スルハ再犯ノ例ニ因ル

第六章 加減順序

○犯罪ノ情狀ニ因リ此刑法ノ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕スル
キ片ハ其順序如何

△(一)再犯加重(二)宥恕減輕(三)自首増減(四)酌量減輕トナスト雖
モ從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕
ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑トナス

第七章 數罪俱發

○重罪輕罪ヲ犯シ未ダ裁判ヲ經スシテ二罪俱ニ發シタル時如何

△一ノ重キ即チ重罪ニ從テ處分ス

○重罪ノ刑ハ刑期ノ長短ヲ以テ重輕ヲ分ツヤ

△刑期ノ長キ者ヲ以テ重トナス

○重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重トナスト雖モ若シ刑期ノ等シキ
片ハ如何

△若シ刑期相等シキ時ハ一ノ定役アル者ヲ以テ重トナシテ論ス
○輕罪ノ刑二罪俱發スルキハ如何

△其所犯情狀最モ重キ者ニ從テ處分ス

○違警察二罪以上俱ニ發シタルキ如何

△二罪各其刑ヲ科スト雖モ若シ重罪或ハ輕罪ト共ニ發シタルキハ一ノ重キニ從テ處斷ス

○一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其罪輕ク若クハ等シキ時ハ如何

△其輕ク若クハ相等シキキハ之ヲ論セスト雖モ其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス

○前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ納完シタル者如何

△金壹圓ヲ一日ニ折算シ後發ノ刑ニ通算ス其壹圓以下ト雖モ仍ホ一

日ニ計算ス

○前發ノ刑ヲ判決スル時未ダ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタルキ如何

△其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ罪ヲ再犯ノ罪ニ通算ス

○數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從テ處斷スルキ若シ其沒收及ヒ徵償スルキヲアルキハ如何

△一ノ重キニ從フ時ト雖モ沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

第八章 數人共犯

第壹節 正犯

○二人以上現ニ罪ヲ犯シタル時ハ正從ヲ以テ論スルヤ

△正犯從犯ヲ分タス皆正犯トナシ各自ニ其刑ヲ科ス

○人ヲ教唆シテ重罪或ハ輕罪ヲ犯サシメタル者如何

△人ヲ教唆シテ重罪又ハ輕罪ヲ犯サシメタル者ハ正犯トナス

○正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重スヘキハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ハ如何

△正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重スヘキ時ト雖ヒ他ノ正從犯及ヒ教唆者ニ之ヲ及ボスヲ得ス

○犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重スヘキ時教唆者如何

△教唆者ハ多數ノ中ニ算入スルヲ得ス

○事ヲ指定シテ犯人ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆者ニ乘シ其指定ヲタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ現ニ行フ處ノ方法教唆者ノ指定シタル所ト異ナルハ如何

△所犯教唆シタル罪ヨリ重キハ教唆者ハ止テ指定シタル罪ニ從テ處分ス若シ所犯教唆シタル罪ヨリ輕キハ現ニ行フ處ノ罪ニ從テ

處斷ス

第二節 從犯

○重罪又ハ輕罪ヲ犯スヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導示指シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者如何

△皆從犯トナシ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス若シ正犯現ニ行フ處ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キハ止テ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

○犯人其身分ニ因リ刑ヲ加重スヘキ者從犯トナルハ如何

△其身分ニ因リ刑ヲ加重スヘキ者從犯トナルハ其重キニ從テ一等

ヲ減ス

○若シ正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免スヘキハ從犯ノ者如何

△正犯減免スヘキト雖ヒ從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルヲ得ス

第九章 未遂犯罪

○凡罪ヲ犯サントシテ謀リ又ハ其豫備ヲナスト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者如何

△本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非ラサレハ其刑ヲ科セス

○罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ未タ其事ヲ遂ケサル者如何

△已ニ遂ケタル所ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

○重罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ未タ遂ケサル者如何

△已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

○輕罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ未タ遂ケサル者如何

△已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減スト雖モ本條別ニ記載スルニ非ラサレハ此例ヲ用ヒテ處斷スルヲ得ス

○重罪ヲ犯サントシテ謀リ又ハ其豫備ヲナスト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者如何

△本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非ラサレハ其刑ヲ科セス

○違警罪ヲ犯サントシテ未タ其事ヲ行ハサル者如何

△其罪ヲ問ハス

第十章 親屬例

○此刑法ニ於テ親屬ト稱スル何々ヲ云フ

△(一)祖父母父母夫妻 (二)子孫及ヒ其配偶者 (三)兄弟姉妹及ヒ其配

偶者 (四)兄弟姉妹ノ子及ヒ其配偶者五父母ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶

者 (六)父母ノ兄弟姉妹ノ子 (七)配偶者ノ祖父母父母 (八)配偶者ノ

兄弟及ヒ其配偶者 (九)配偶者ノ兄弟姉妹ノ子 (十)配偶者ノ父母ノ

兄弟姉妹ヲ云フ

○四

○祖父母ト稱スルハ如何

△高曾祖父母外祖父母皆同シ

○父母ト稱スルハ如何

△繼父母嫡母皆同シ

○子孫ト稱スルハ如何

△庶子曾玄孫外孫皆同シ

○兄弟姉妹ト稱スルハ如何

△異父異母ノ兄弟姉妹皆同シ

○養子養家ニ於ケル親屬ノ例如何

△實子ニ同シ

明治十三年八月九日出版御届
全 八月 出版

價拾五錢

編纂人

京都府平民

山口 俊一

大阪東區石町壹丁目
十四番地寄留

大阪府平民

吉岡 平助

大阪東區備後町
四丁目三十番地

出版人

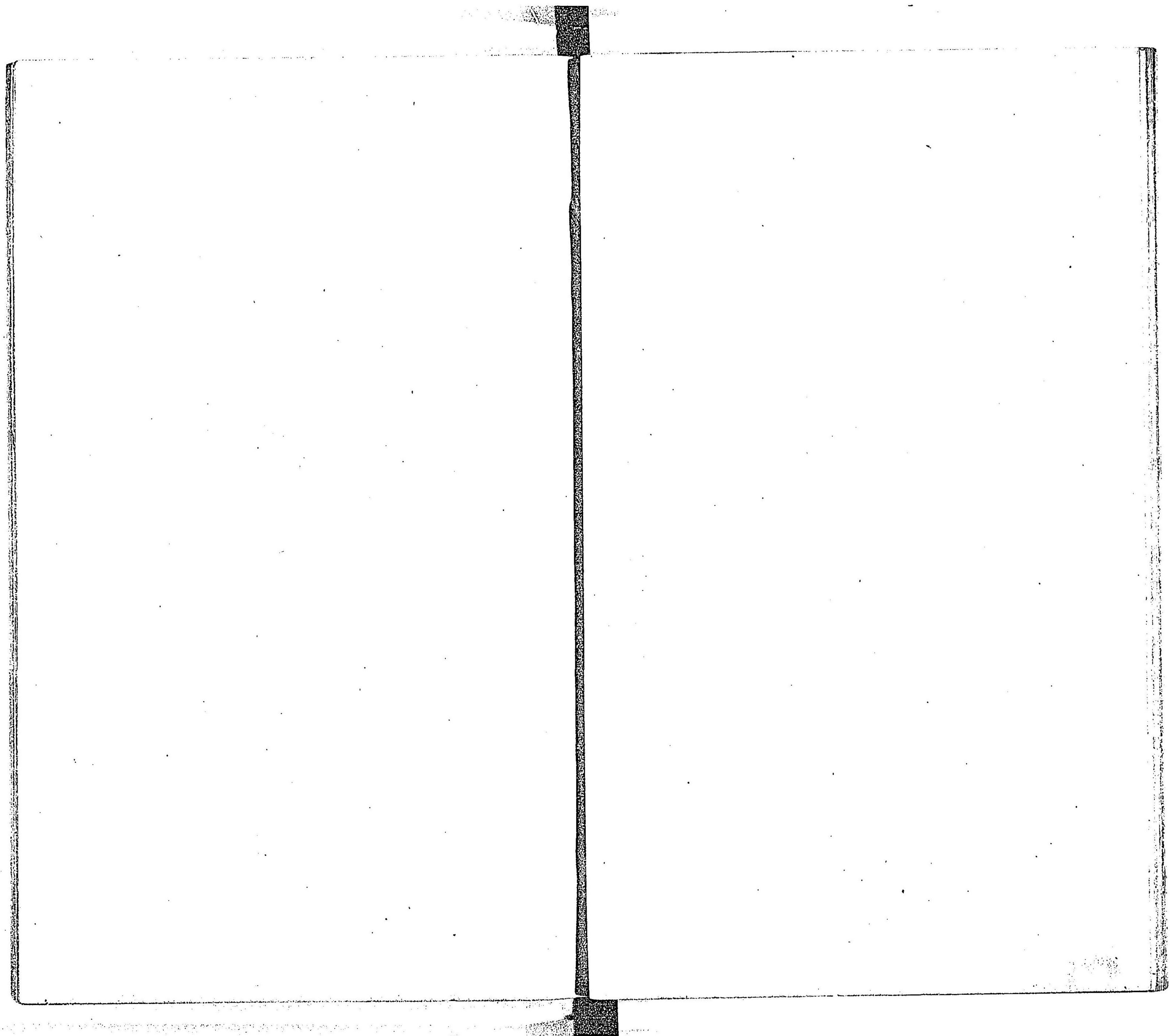
印刷 大阪備後町二丁目魁新聞社

諸國

賣捌

書林

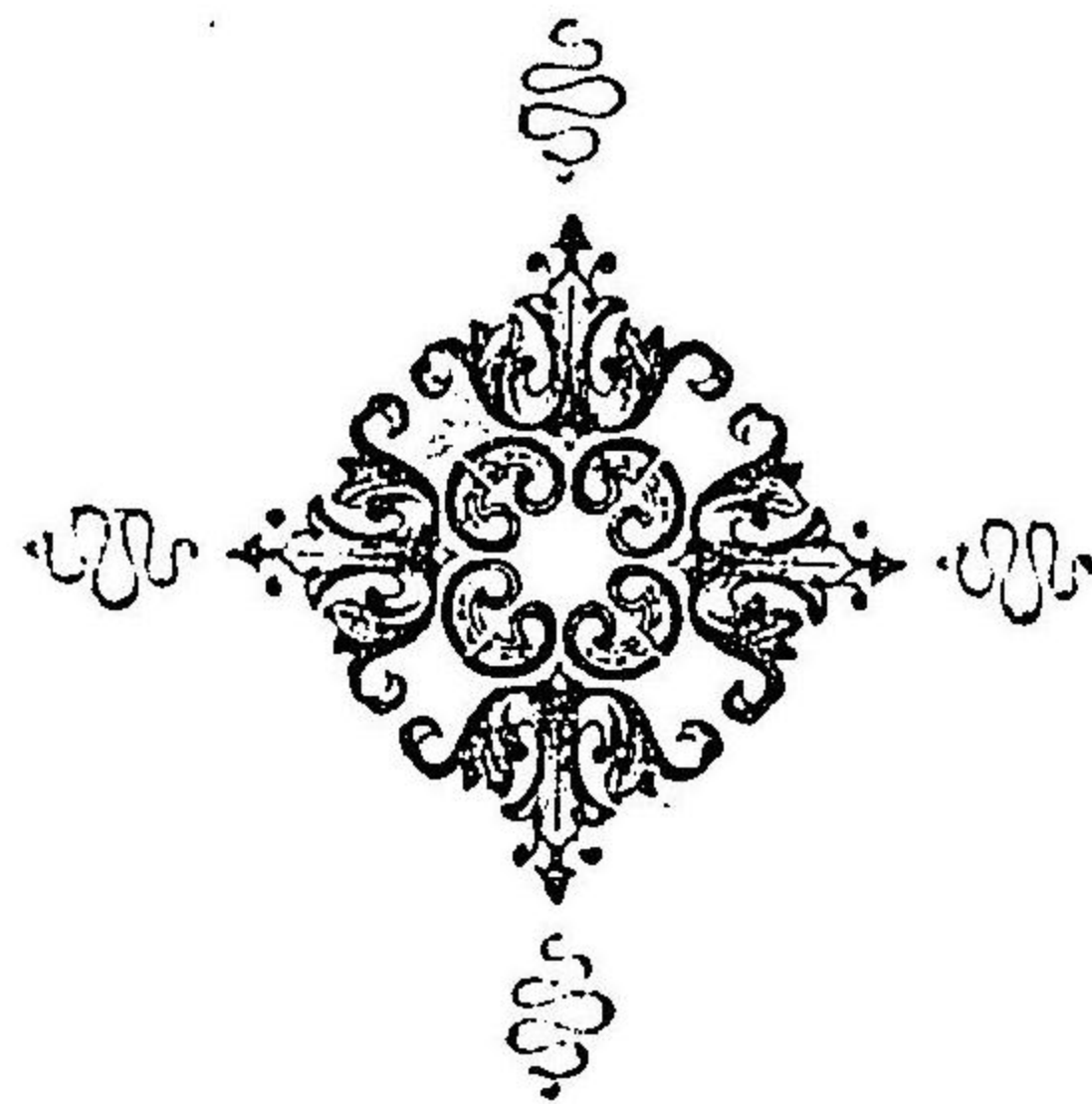
全	全	全	紀	阿	全	伊	肥	肥	周	長	安	備	播	全	土
			伊	波		豫	後	前	防	門	藝	後	磨		佐
			和	德	川	今	熊	長	山	船	廣	尾	姬		高
			歌	島	之	治	本	崎	口	木	島	道	路		知
兒	津	野	平	坂	高	真	國	米	宮	中	松	三	山	栗	澤
玉	田	田	井	井	津	鍋	武	原	川	原	村	木	野	尾	本
林	源	大	文	萬	住	爲		多	臣	卯	善	半	長	民	駒
兵	兵	二				之				兵	兵				
衛	衛	郎	助	吉	松	助	弘	藏	吉	衛	助	衛	平	藏	吉

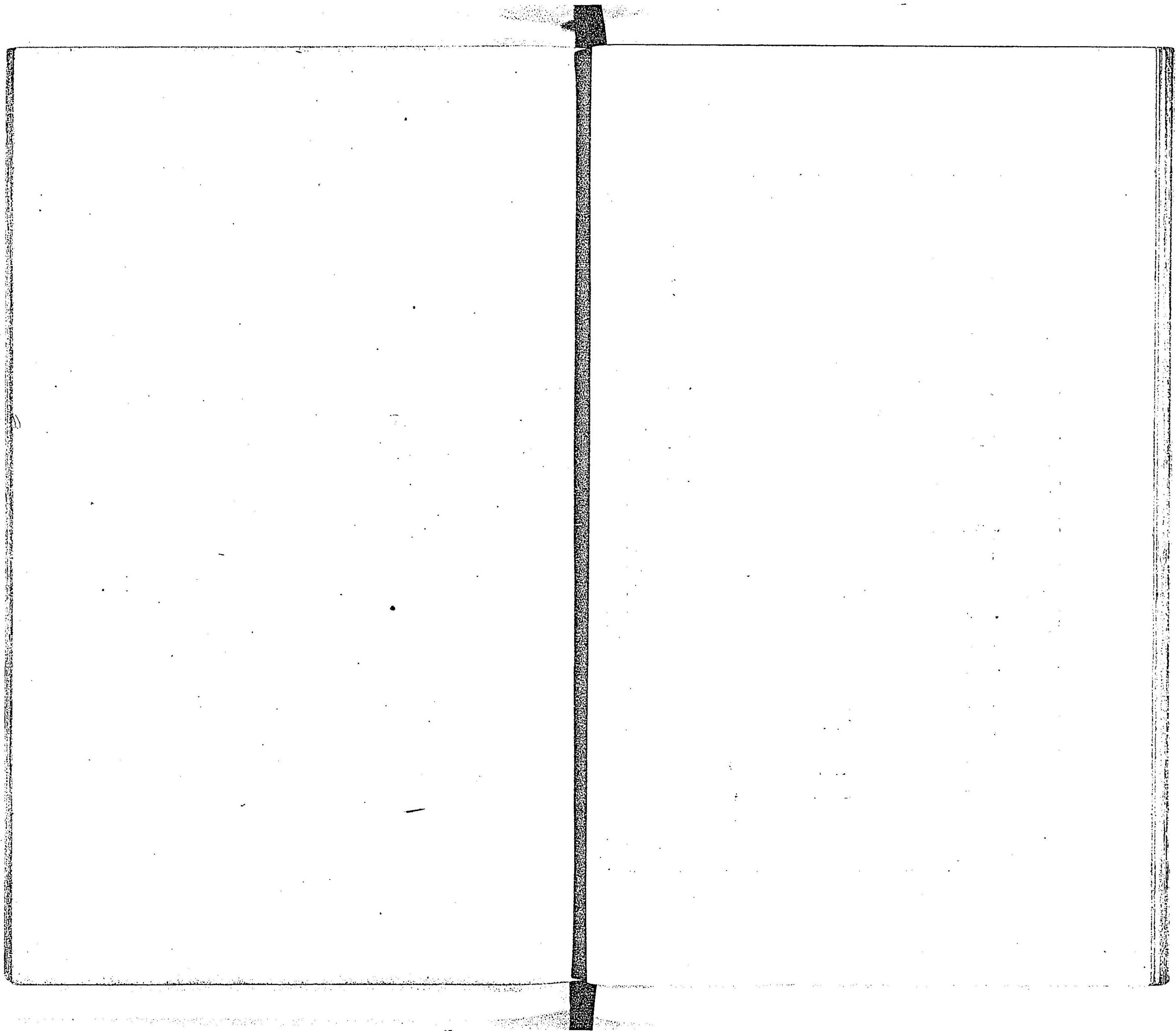


山口俊一編纂

刑
法
問
答
卷
二

明治十三年 吉岡氏出版





刑法問答卷ノ二目錄

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

(自第百二十六條
至第百二十條)

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

第二節 外患ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

(自第百三十六條
至第百八十一條)

第一節 兇徒聚衆ノ罪

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪

第五節 私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

二

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

第七節 人ノ住所ヲ侵スル罪

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

第四章 信用ヲ害スル罪 (自第百八十二條 至第百卅六條)

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第二節 官印ヲ偽造スル罪

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病証書ヲ偽造スル罪

第六節 偽証ノ罪

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

第五章 健康ヲ害スル罪 (自第百三十七條 至第百五十七條)

第一節 阿片烟ニ關スル罪

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

第五節 健康ヲ害スヘキ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第六章 風俗ヲ害スル罪 (自第百五十八條 至第百六十三條)

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪 (自第百六十四條 至第百六十六條)

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪 (自第百六十七條 至第百七十二條)

三

四

第九章 官吏瀆職ノ罪

(自第二百七十三條
至第二百九十一條)

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二節 官吏人民ニ對スル罪

第三節 官吏財産ニ對スル罪

刑法問答卷之二

山口俊一編纂

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

○天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者如何

△死刑ニ處ス

○天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者如何

△三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ

附加シ仍ホ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者如何

△三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ

一 附加シ仍ホ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

二

○皇族ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントナシタル者如何

△其危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ若シ其加ヘントナシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

○皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者如何

△二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス仍ホ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

○政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂セノルヲ目的ト爲シテ内亂ヲ起シタル時其首魁及ヒ教唆者ハ如何

△首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス其未タ遂ケサル時ニ於テ乃チ此刑ニ處ス

○羣集ノ指揮ヲナシ其他樞要ノ職務ヲナシタル者ハ如何

△無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス其目的未タ遂ケサル時ニ於テ乃チ此刑ニ處ス

○兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲナシタル者如何

△重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス其目的未タ遂ケサル時ニ於テ乃チ此刑ニ處ス

○教唆ニ乘シテ附加隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者如何

△二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス其目的未タ遂ケサル時ニ於テ乃チ此刑ニ處ス

○内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者如何

△已ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ全シ

三 ○政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者如何

四

△未タ兵ヲ舉グルニ至ラスト雖モ内亂ト同シク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ以テ死刑ニ處ス

○兵隊ヲ募招シ又ハ兵器金穀ノ準備ヲナシ其他内亂ノ豫備ヲナシタル者如何

△政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他制憲ヲ亂紊スルヲ目的トナシ内亂ヲ起シタル者ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス其内亂ノ陰謀ヲナスト雖モ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

○内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲナスト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者如何

△本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

○内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者如何

△二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○内亂ニ乘シテ人ノ身體財産ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル者如何

△通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二節 外患ニ關スル罪

○外國ニ與ミシテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵國ニ附屬シタル者如何

△死刑ニ處ス

○交戰中敵國ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者如何

△死刑ニ處ス

五

○本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地

六

又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シ或ハ敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者ハ如何

△無期流刑ニ處ス

○陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲナス者交戦ノ際適國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ欠乏ヲ致シタル者如何

△有期流刑ニ處ス

○外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キ又ハ其豫備ヲナシタル者如何

△己ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處シ其豫備ニ止マル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス

○外國交戦ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其布告ニ違背シタル者如何

△六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス仍ホ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚集ノ罪

○兇徒多衆ヲ嘯集シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受クルト雖ヒ仍ホ解散セサル者如何

△首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス其附加隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

○兇徒多衆ヲ嘯集シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ搔擾シ其他暴動ヲナシタル者如何

△首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其嘯集ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附加隨行シタル者ハ

七

二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時如何

△現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ以テ死刑ニ處ス

○暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル者首魁及

ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者如何

△首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者ハ死刑ニ處ス

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

○官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執

行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者或ハ暴行脅迫

ヲ以テ其官吏ノ爲スヘカラサル事件ヲ行ハシメタル者如何

△四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス若シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等

ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

○官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シ又ハ

其目前ニ非ラスト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シ

タル者如何

△一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

○已決ノ囚徒逃走シタル者如何

△一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス其未ダ遂ケサルモノハ未遂犯罪

ノ例ニ照シテ處斷ス

○已決ノ囚人獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲナシテ逃走シタル者

如何

△三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス其未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯ス時ハ再犯ヲ以テ論スルヤ

△其刑期限内再ヒ逃走シタル時ニ非ラサレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

○未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ如何

△已決ノ囚徒逃走シタル例ニ同シ其原犯ノ罪ヲ判決スル片ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス

○囚徒三人以上通謀シテ逃走シタル時如何

△已決ノ囚徒逃走シタル例ニ照シ各一等ヲ加フ其未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○囚徒ヲ逃走セシムルタメ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法

ヲ指示シタル者如何

△三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス因テ囚徒逃走ヲ致シタル時ハ一等ヲ加フ其未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者如何

△一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ其囚徒重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ係ル片ハ輕懲役ニ處

ス未タ遂ケサル者ハ皆未遂犯罪ニ照シテ處斷ス

○看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ如何

△二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス若シ其囚徒重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ係ル片ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

○犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知テ之

ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者如何

△十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ルキハ一等ヲ加フ

○犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラタル者ナルコトヲ知テ其親屬之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル時ハ如何

△其犯人ノ親屬ニ係ルキハ其罪ヲ問ハス

○他人ノ罪ヲ免カレシメシメテ圖リ其罪証トナルヘキ物件ヲ隱蔽シタル者如何

△十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○犯人ノ親屬其犯罪人ノ罪ヲ免カレシメシメテ圖リ其罪証トナルヘキ物件ヲ隱蔽シタル者如何

△其罪ヲ論セス

第四節 附加刑ノ執行ヲ遵ルノ罪

○公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行フタル時如何

△一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○監視ニ附セラレタル者其規則ニ違背シタル時如何

△十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

○公權ヲ剝奪セラレ又ハ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行フタルニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケ再ヒ犯シタル時ハ再犯ヲ以テ論スルヤ

△其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

○監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタルニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケ

再ヒ犯シタル者如何

△其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非ラカレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

○官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スルテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其
他破裂質ノ物品ヲ製造シ或ハ製造セシメテ圖リ未タ遂ケサル者如
何

△己ニ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上
二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照
シテ處斷ス其職工又ハ雇人ニシテ止メ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ
本刑ニ二等ヲ減ス未タ遂ケサル者ハ又未遂犯罪ノ例ニ從ル

○官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スルテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其
他破裂質ノ物品ヲ輸入シ又ハ私ニ販賣シタル者如何

△其輸入シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二
百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下
ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス未タ遂ケサル者
ハ皆未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スルテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其
他破裂質物品ヲ私ニ所有シタル者如何

△二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スルテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其
他破裂質ノ物品ヲ製造スルニ供シタル器械ハ如何

△單ニ其用ニ供シタル者ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒収ス

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

○道路橋梁河溝港埠等ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者如何

△二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○道路橋梁河溝港埠等ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ如何

△歐打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタルモノハ如何

△二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工等自ラ偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル時如何

△凡人ノ刑ニ一等ヲ加フ

○電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シ或ハ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲナスト雖モ未タ其不通ニ至ラサル時如何

△其不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス未タ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス其未タ遂ケサル者ハ皆未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工等自ラ電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シ或ハ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲナスト雖モ未タ不通ニ至ラサル時等如何

△其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工等自ラ之ヲ犯スルハ凡人ノ刑ニ一等ヲ加フ

○瀛車ノ往來ヲ妨害スルタメ鉄道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危険ナル

障礙ヲナシタル者如何

△重懲役ニ處ス

○其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工等自ラ瀛車ノ往來ヲ妨害スルタ
メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ノ障礙ヲナシタル者如何

△凡人ノ刑ニ一等ヲ加フ

○船舶ノ往來ヲ妨害スルタメ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標
識ヲ損壞シ又ハ詐偽ノ標識ヲ點示シタル者如何

△重懲役ニ處ス

○其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工等自ラ船舶ノ往來ヲ妨害スルタ
メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐偽ノ標
識ヲ點示シタル者如何

△凡人ノ刑ニ一等ヲ加フ

○瀛車ノ往來ヲ妨害スルタメ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル
障礙ヲナシ因テ瀛車ヲ顛覆シ又ハ人ヲ死ニ致シタル時如何

△其顛覆セシメタル時ハ無期徒刑ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル時ハ
死刑ニ處ス

○船舶ノ往來ヲ妨害スルタメ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標
識ヲ損壞シ又ハ詐偽ノ標識ヲ點示シ因テ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死
ニ致シタル時ハ如何

△其覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑
ニ處ス

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

○晝間故ナリ人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入り
タル者ハ如何

○二

△十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス若シ門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開テ入りタル時。兇器其他犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ヲ携帯シテ入りタル時。暴行ヲナシテ入りタル時。二人以上ニテ入りタル時等ハ一等ヲ加フ

○夜間故ナク人ノ往居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ如何

△一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開テ入りタル時。兇器其他犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ヲ携帯シテ入りタル時。暴行ヲナシテ入りタル時。二人以上ニテ入りタル時。等ハ一等ヲ加フ

○晝間故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者如何

△十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス其門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ

鎖鑰ヲ開テ入りタル時。兇器其他犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ヲ携帯シテ入りタル時。暴行ヲナシテ入りタル時。二人以上ニテ入りタル時。等ハ一等ヲ加フ

○夜間故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル時ハ如何

△一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ其門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開テ入りタル時。兇器其他犯罪ノ用ニ供スヘキ物品ヲ携帯シテ入りタル時。暴行ヲナシテ入りタル時。二人以上ニテ入りタル時等ハ一等ヲ加フ

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

○官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者如何

△二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又

一二

ハ毀壞シタルハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
○其看守者官ヨリ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ自ラ
破棄シタル時如何

△凡人ノ刑ニ一等ヲ加フ

○看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人
アルコトヲ覺ラサル時如何

△二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

○陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ
故ナクシテ之ヲ肯ンセサルトキハ如何

△二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス

○陸軍ノ徵兵ニ編入セラルヘキ者身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐
偽ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時若クハ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐
稱シ代テ徵募ニ應セシメタル者等如何

△一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス

○人ノ囑記ヲ受ケ其氏名ヲ詐稱シ代テ陸海軍ノ徵募ニ應シタル者如
何

△二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分拆又ハ鑑定ヲ命セラレ
タル者故ナクシテ之ヲ肯ンセサル時如何

△四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

○裁判所ヨリ証人トシテ証據ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナク

シテ之ヲ肯ンセサルキハ如何

△四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

○傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑ヒアル船舶入港スルニ當リ或ハ

類傳染病流行ノ際醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スル

ヲ命ジラレタル者故ナクシテ之ヲ肯ンセサルキハ如何

△五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

○内國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シ又ハ變造シテ行使シタル者如何

△其偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス若シ其變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

○官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ又ハ變造シテ行使シタル者如何

△内國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シ又ハ變造シテ行使シタル者ノ刑ニ同シ

○内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シ又ハ變造シテ行使シタル者如何

△其偽造ノ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○官許ヲ得テ發行スル内國ニ於テ通用スル外國ノ銀行紙幣ヲ偽造シ又ハ變造シテ行使シタル者如何

△内國ニテ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シ又ハ變造シテ行使シタル者ノ刑ニ同シ

○内國通用ノ銅貨ヲ偽造シ又ハ變造シテ行使シタル者如何

△其偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○内國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣若クハ銀行紙幣内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨及ヒ銀行紙幣又ハ内國通用ノ銅貨等ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサルモノ或ハ其偽造變造未タ成ラサル者如何

△其偽造又ハ變造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減ス其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス其輕罪ノ刑ニ該ルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○貨幣及ヒ紙幣ヲ偽造セシトシテ已ニ偽造ノ器械ヲ豫備スルト雖モ未タ着手セサル者如何

△各本刑ニ照シ三等ヲ減ス其輕罪ノ刑ニ該ル者ハ六月以上二年以下

ノ監視ニ付ス

○貨幣ヲ偽造又ハ變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工又ハ職工ノ補助ヲナシテ雜役ニ供シタル者ハ如何

△情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ハ其偽造變造各犯人ノ受クベキ刑ニ照シ一等ヲ減ス輕罪ノ刑ニ該ルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス其職工ノ補助ヲナシテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ受クベキ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス輕罪ノ刑ニ該ルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者如何

△偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス其輕罪ノ刑ニ該ルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ如何

△偽造變造ノ刑ニ同シ

○偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シタル者若シハ其未
タ行使セサル者如何

△其行使シタルモノハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ各二等ヲ減
ス其輕罪ノ刑ニ該ルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス未タ行
使セサル者ハ各三等ヲ減ス其輕罪ノ刑ニ該ルモノハ六月以上二年
以下ノ監視ニ付ス

○貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ
官ニ自首シタル時ハ如何

△本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス若シ其職工及ヒ房屋ヲ
給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタルトキハ本刑
ヲ免ス

○貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルヲ知リ之ヲ行使シ
タル者如何

△其行使シタル價額ニ倍ノ罰金ニ處ス其罰金ハ二圓以下ニ降スヲ
得ス

第二節 官印ヲ偽造スル罪

○御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタルモノハ如何

△無期徒刑ニ處ス

○各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者如何

△重懲役ニ處ス

○產物商品等ニ押用スル官ノ記号印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シ
タル者如何

△輕懲役ニ處ス

○書籍什物等ニ押用スル官ノ記号印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者或ハ其之ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者等如何

△偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス其未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者如何

△各偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス若シ其看守者自ラ犯シタルトキハ偽造ノ刑ニ同シ

○官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シ或ハ其之ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者如何
△其偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス仍ホ六月以

上二年以下ノ監視ニ付ス其未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○己ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタルモノハ如何

△二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

○詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シ或ハ其詔書ヲ毀棄シタル者如何

△無期徒刑ニ處ス

○官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者或ハ其官ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ如何

△輕懲役ニ處ス若シ其減輕スヘキニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月

以上二年以下ノ監視ニ付ス

○公債証書地券其他官吏ノ公証シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者如何

△輕懲役ニ處ス其減輕スヘキニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス若シ無記名ノ公債証書ニ係ルトキハ一等ヲ減ス

○官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シ或ハ其文書ヲ毀棄シタル者如何

△凡人ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

○官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者如何

△偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス若シ其減輕スヘキニ因テ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

○他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタルモノハ如何

△六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○他人ノ印影ヲ盜用シテ使用シタル者如何

△他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル刑ニ一等ヲ減ス

○爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買スヘキ証書若シハ金額ト交換スヘキ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者或ハ其手形証書ニ詐偽ノ裏書ヲナシテ行使シタル者等如何

△輕懲役ニ處ス

○賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル証書ヲ偽造シ又ハ増減變

換シテ行使シタル者如何

△四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ除クノ外其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者如何

△一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス其未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

○官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者如何

△一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス若シ其官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

○属籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者如何

△十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○其官吏属籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲タルノ情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者如何

△其免狀鑑札ヲ受ケタル者ノ刑ニ一等ヲ加フ

○公務ヲ免ガルヘキ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ醫師囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル者等如何

△自ラ其証書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノタメニシ他人ノ爲メ
ニスルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓
以下ノ罰金ヲ附加ス醫師囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ証書ヲ造リタル者
ハ一等ヲ加フ

○陸海軍ノ徴兵ヲ免カルヘキタメ疾病ノ証書ヲ偽造シテ行使シタル者及
ヒ其囑託ヲ受ケテ詐僞ノ証書ヲ造リタル醫師等如何

△公務ヲ免カルヘキタメ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ証書ヲ偽造シテ行
使シタル者等ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

○免狀鑑札及ヒ疾病ノ証書ヲ増減變換シテ行使シタル者如何

△各偽造ノ刑ニ同シ

第六節 偽証ノ罪

○重罪ノ刑事ニ關スル証人トシテ裁判所ニ呼出サレタルモノ其被告

人ヲ曲庇スルタメ事實ヲ掩蔽シテ偽証ヲナシタル者如何

△重罪ヲ曲庇スルタメ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ
處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ其事件ノ裁判宣告ニ
至ラサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

○輕罪ノ刑事ニ關スル証人トシテ裁判所ニ呼出サレタルモノ其被告
人ヲ曲庇スルタメ事實ヲ掩蔽シテ偽証シタル者如何

△輕罪ヲ曲庇スルタメ偽證シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ
處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ其事件ノ裁判宣告ニ
至ラサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免ス

○違警罪ノ刑事ニ關スル証人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者其被告
人ヲ曲庇スルタメ事實ヲ掩蔽シテ偽証シタル者如何

△違警罪ヲ曲庇スルタメ偽証シタル者ハ違警罪ノ本條ニ因テ處斷ス

若シ其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

○偽証ノタメ重罪輕罪違警罪ノ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽証者ノ刑ハ如何

△各偽証ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

○被告人ヲ重罪ニ陷害スルタメ偽証ヲナシタル者如何

△二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ官ニ自首シタル時

ハ本刑ヲ免ス

○被告人ヲ輕罪ニ陷害スルタメ偽証シタル者ハ如何

△六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ官ニ自首シタル時

ハ本刑ヲ免ス

○被告人ヲ違警罪ニ陷害スルタメ偽証ヲナシタル者如何

△違警罪ニ陥ラシムルタメ偽証シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ其事件ノ裁判宣告

ニ至ラサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

○偽証ノタメ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ其偽証者ノ刑ハ如何

△其被告人ノ處セラレタル刑ニ反座ス若シ反座ノ刑各偽証ノ刑ヨリ輕キ時ハ其偽証ノ例ニ照シテ處斷ス其刑期限内ニ於テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反座ノ刑期ヲ減スルヲ

得ルト雖モ減シテ各偽証ノ刑ヨリ降スヲ得ス

○偽証ノタメ被告人死刑ニ處セラレ又ハ其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於

○四

テ發覺シタルトキハ反座ノ刑如何

△其被告人己ニ死刑ニ處セラレタル時ハ反座ノ刑一等ヲ減ス若シ其

未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタルトキハ二等ヲ減ス

○被告人ヲ死刑ニ陷ル、ノ目的ヲ以テ偽証ヲナシタル者如何

△反坐ノ刑仍ホ死刑ニ處ス若シ其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺

シタル時ハ一等ヲ減ス

○民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽証ヲナシタル者如何

△一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス若シ其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ官ニ自首シタル時

ハ本刑ヲ免ス

○鑑定又ハ通事ノタメ裁判所ニ呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲナシタ

ル時如何

△各偽証ノ例ニ照シテ處斷ス若シ其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

○賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽証又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲナサシメタル者如何

△各偽証ノ例ニ同シ

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

○度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者如何

△二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ因テ官ノ記号印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタルトキハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者如何

△其偽造變造シテ販賣シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

○商買農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ如何
 △一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス
 ○人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタルモノハ如何
 △其囑託シタル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

○官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ如何
 △二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 ○官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ借用シタル者如何
 △十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

○公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者如何
 △一年以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 ○賄賂ヲ以テ投票ヲナシ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲナシタル者ハ如何
 △二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 ○投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時如何
 △六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三四

加ス

○調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報知スル者其數ヲ増減シ其他詐偽ノ所爲
アルトキ如何

△一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪

○阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者及ヒ稅關官吏情
ヲ知テ之ヲ輸入セシメタル者如何

△其輸入シ及ヒ製造シ又ハ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス其稅關官
吏其情ヲ知テ輸入セシメタル者ハ一等ヲ加フ

○阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル

者及ヒ税關官吏情ヲ知テ之ヲ輸入セシメタル者如何

△其輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタルモノハ輕懲役ニ處ス若シ税

關官吏情ヲ知テ輸入セシメタル者ハ一等ヲ加フ

○阿片烟ヲ吸食スルヲメ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者又ハ人ヲ引誘シ

テ阿片烟ヲ吸食セシメタル者如何

△輕懲役ニ處ス

○阿片烟ヲ吸食シタル者如何

△二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

○阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者如何

△一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

○人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラ

六四

シメタル者及ヒ之ヲ汚穢シタルニ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者如何
 △其用ルヲ能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁
 錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス其因テ人ヲ疾病又ハ死
 ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
 ○人ノ健康ヲ害スヘキ物品ヲ用ヒ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者
 及ヒ若シ其水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタルニ因テ人ヲ疾病又ハ死
 ニ致シタル者如何

△其水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮
 ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ其因テ疾病又ハ死
 ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

○傳染病豫防ノヲメ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ

又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者如何

△一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰
 金ニ處ス若シ船長自ラ之ヲ犯シ又ハ人ノ犯スヲ知テ制セサル者
 ハ一等ヲ加フ

○傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出テタル
 者如何

△十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金
 ニ處ス

○獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル
 者如何

△十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰
 金ニ處ス

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害スヘキ物品製造ノ規則ニ關スル罪

○官許ヲ得スシテ危害ヲ生スヘキ物品ノ製造所ヲ創設シタル者又ハ其之ヲ犯シタルニ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ如何

△其製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス若シ因テ人ヲ疾病又ハ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○官許ヲ得スシテ健康ヲ害スヘキ物品ノ製造所ヲ創設シタル者及ヒ之ヲ創設シタルニ因リ人ヲ疾病又ハ死傷ニ致シタル時如何

△其創立シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス若シ因テ人ヲ疾病又ハ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○官許ヲ得テ危害又ハ健康ヲ害スヘキ物品ノ製造所ヲ創設スト雖モ

其危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者及ヒ其違背シタルニ因テ若シ人ヲ疾病又ハ死傷ニ致シタルキハ如何

△其官許ヲ得ズシテ創設シタル者ノ例ニ照シテ各一等ヲ減ス若シ因テ人ヲ疾病又ハ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第五節 健康ヲ害スヘキ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

○人ノ健康ヲ害スヘキ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者及ヒ其之ヲ犯シタルニ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ如何

△其販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス若シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

九四 ○規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シ又ハ其之ヲ販賣シタルニ因テ人

ヲ疾病又ハ死ニ致シタル時ハ如何

△其違背シテ販賣シタルモノハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス若シ
因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キ
ニ從テ處斷ス

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

○官許ヲ得スシテ醫業ヲナシタル者及ヒ其之ヲ犯シテ其治療ノ方法
ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ如何

△其私ニ醫業ヲナシタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其因
テ治療ノ方法ヲ誤リ人ヲ死傷ニイタシタル時ハ過失殺傷ノ各本條
ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六章 風俗ヲ害スル罪

○公然猥褻ノ所業ヲナシタル者ハ如何

△三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

○風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタ
ル者ハ如何

△四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

○賭場ヲ開帳シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ如何
△三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加
ス

○財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者及ヒ其情ヲ知テ房屋ヲ給與シ
タル者如何

△一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス

○飲食物ヲ賭スル者ハ如何

- △其罪ヲ論セス
- 財物ヲ賭シテ博奕ヲナシタルトキ賭博ノ器具財物其現場ニアル者ハ如何
- △其現場ニアル者ハ之ヲ沒収ス
- 財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ如何
- △一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ如何
- △二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 説教又ハ禮拜所ヲ妨害シタルモノハ如何
- △四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

- 埋葬スヘキ死屍ヲ毀棄シタル者又ハ其之ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ如何
- △其毀棄シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其犯サントシテ未ダ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
- 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者又ハ其之ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ如何
- △其棺槨又ハ死屍ヲ見ラハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ所斷ス
- 墳墓ヲ發掘シテ死屍ヲ見ハシ因テ之ヲ毀棄シタル者如何

△三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

○偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ欠クヘカラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ如何

△一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上卅圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ欠クヘカラサル食用物ヲ除クノ外其他ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ如何

△穀類其他衆人ノ需用ニ欠クヘカラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル

刑ニ照シ一等ヲ減ス

○偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シ若クハ農工ノ業ヲ妨害シタル者如何

△十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムルタメ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲナシタル者ハ如何

△一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スルタメ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲナシタル者ハ如何

△一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○虚偽ノ風説ヲ流布シテ穀類其他衆人ノ需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ如何

△十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

○官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ如何

△二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫スヘキ時ニ當リ其處分ヲナサ、ル者ハ如何

△三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○官吏規則ニ違背シテ商業ヲナシタル者ハ如何

△二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三節 官吏人民ニ對スル罪

○官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ナハシメ又ハ其爲スヘキ權利ヲ妨害シタル者如何

△十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○人ノ身体財産ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢事警察官吏其報告ヲ受ケテ速カニ保護ノ處分ヲナサ、ル者如何

△十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者及ヒ司獄官吏程式規則ヲ遵守セスシテ囚

人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシムヘキノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ如何

△十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ其監禁日數十日ヲ過クルモノハ十日毎ニ一等ヲ加フ

○逮捕官吏及ヒ司獄官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ如何

△三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

○水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解クヲ怠リ因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ如何

△毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

○裁判官檢事及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムルヲ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐ノ所爲アル者ハ如何

△四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

○裁判官檢察官故ナクシテ刑事及ヒ民事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ如何

△十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者如何

△一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ不正ノ處分ヲナシタル時ハ一等ヲ加フ其賄賂ヲ已ニ收受

シタル者ハ之ヲ没収シ費用シタル者ハ其價ヲ追徴ス

○裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ如何

△二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ不正ノ裁判ヲナシタル時ハ一等ヲ加フ其已ニ收受シタル賄賂ハ之ヲ没収シ費用シタル者ハ其價ヲ追徴ス

○裁判官檢事警察官吏刑事ノ裁判ニ關シタル賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ如何

△二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス仍ホ其收受シタル賄賂ハ之ヲ没収シ費用シタル者ハ其價ヲ追徴ス

○裁判官檢事警察官吏刑事ノ裁判ニ關シタル賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シ因テ被告人ヲ陷害シタル者及ヒ其之ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ恟カヒ又ハ怨ヲ狹ニ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ如何

△其陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ各偽証刑法第二百廿一條ノ例ニ照シテ反座ス其被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其收受シタル賄賂ハ各之ヲ没収シ費用シタル者モ又其價ヲ追徴ス

第三節 官吏財産ニ對スル罪

○官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ如何

△輕懲役ニ處ス

○官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シ因テ官ノ文書簿冊ヲ増減
變換シ又ハ毀棄シタル時如何

△官ノ文書ヲ偽造スル(刑法第百五條ヲ指ス)ノ例ニ照シテ處斷ス

○租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者
ハ如何

△二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附
加シ仍ホ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

明治十三年八月九日出版御届



編纂人

京都府平民

山口俊一

大阪東區石町壹丁目
十四番地寄留

出版人

大阪府平民

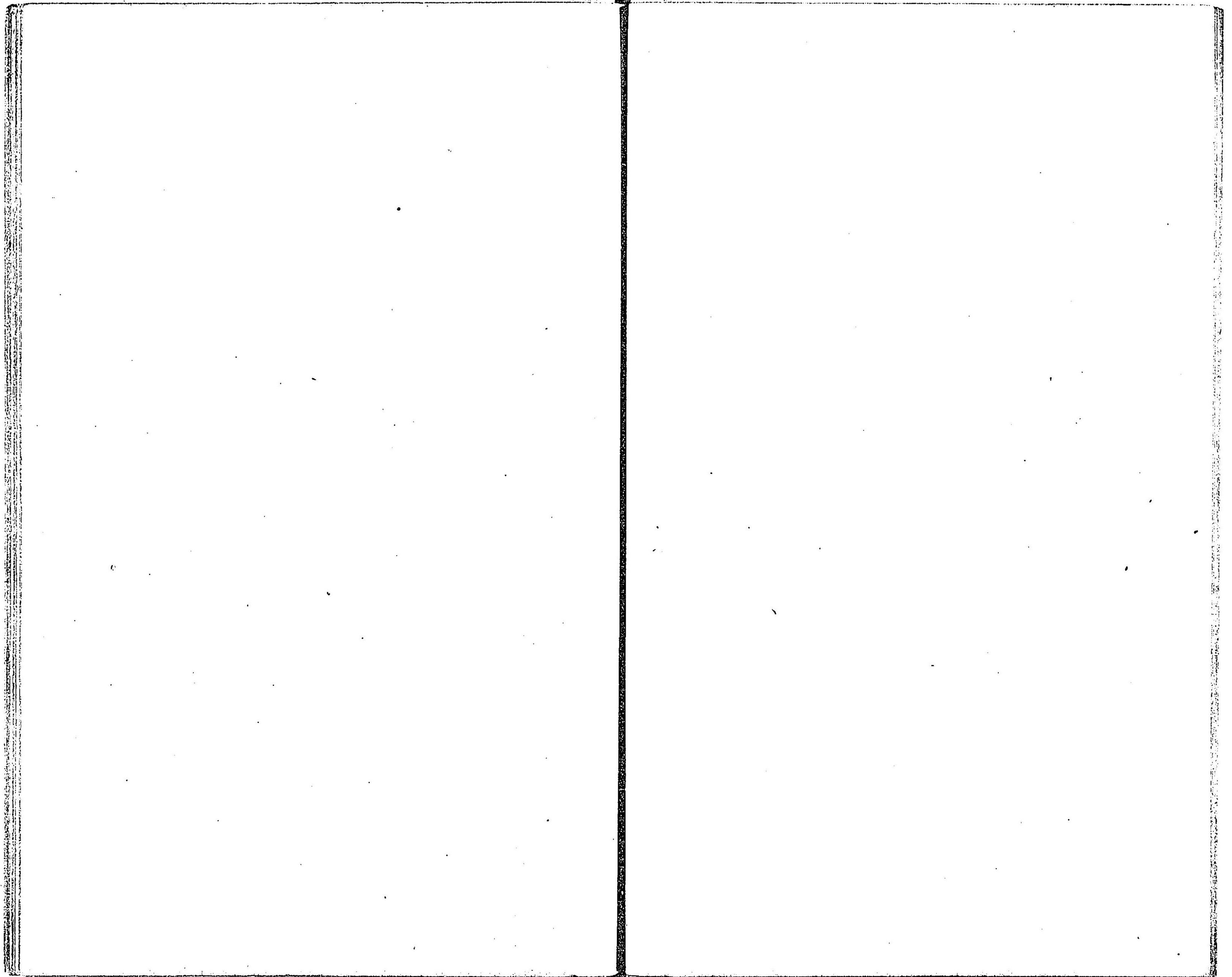
吉岡平助

大阪東區備後町
四丁目三十番地

印刷 大阪備後町二丁目魁新聞社

書 賣 諸
林 捌 國

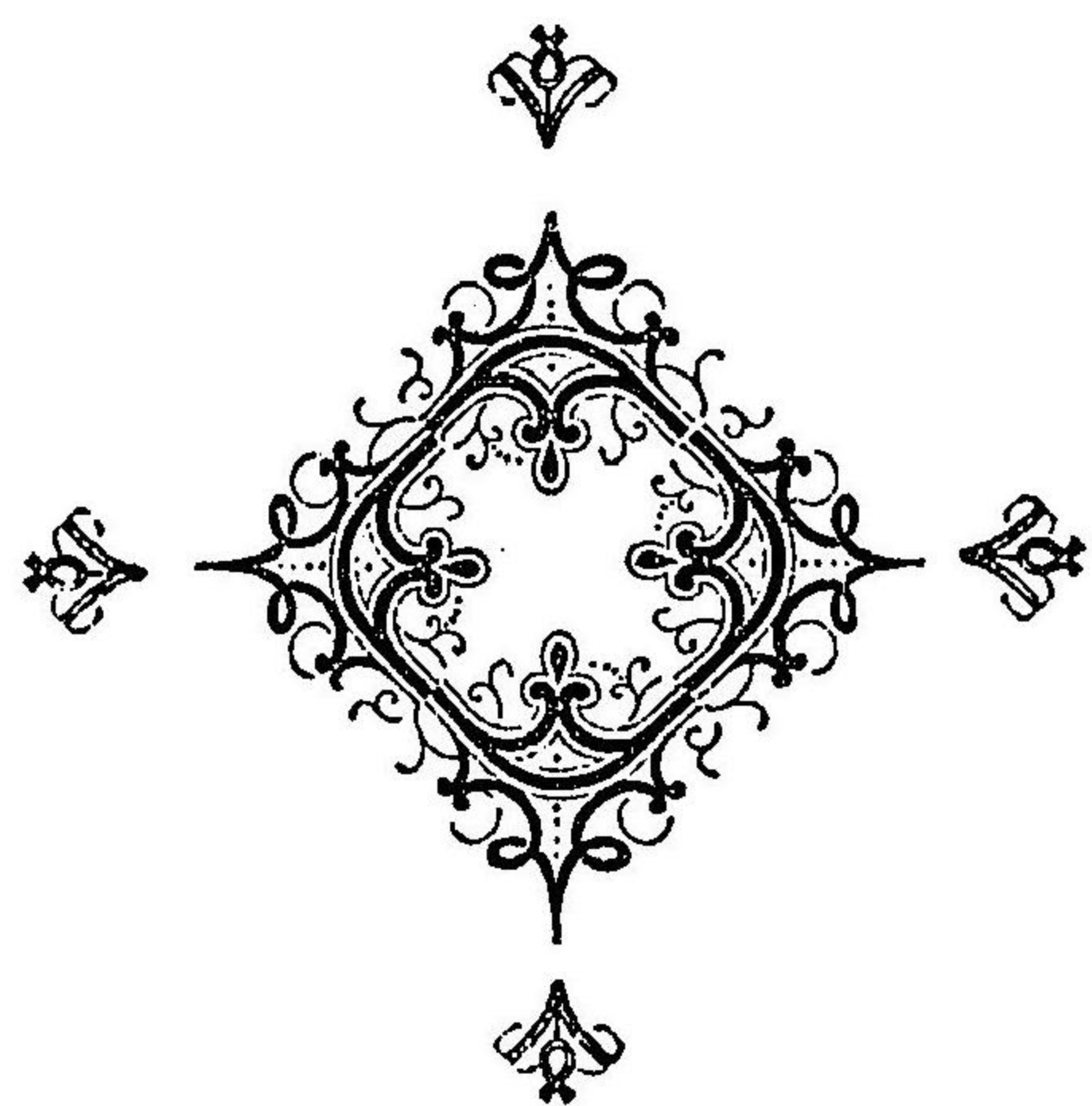
全	全	全	紀	阿	全	伊	肥	肥	周	長	安	備	播	全	土
			伊	波		豫	後	前	防	門	蕨	後	磨		佐
			和	德	川	今	熊	長	山	船	廣	尾	姬		高
			歌	島	之	治	本	崎	口	木	島	道	路		知
兒	津	野	平	坂	高	真	國	米	宮	中	松	三	山	栗	澤
玉	田	田	井	井	津	鍋	武	原	川	原	村	木	野	尾	本
林	源	大	文	萬	住	爲		多	臣	卯	善	半	長	民	駒
兵	兵	二				之				兵	兵				
衛	衛	郎	助	吉	松	助	弘	藏	吉	衛	助	衛	平	藏	吉

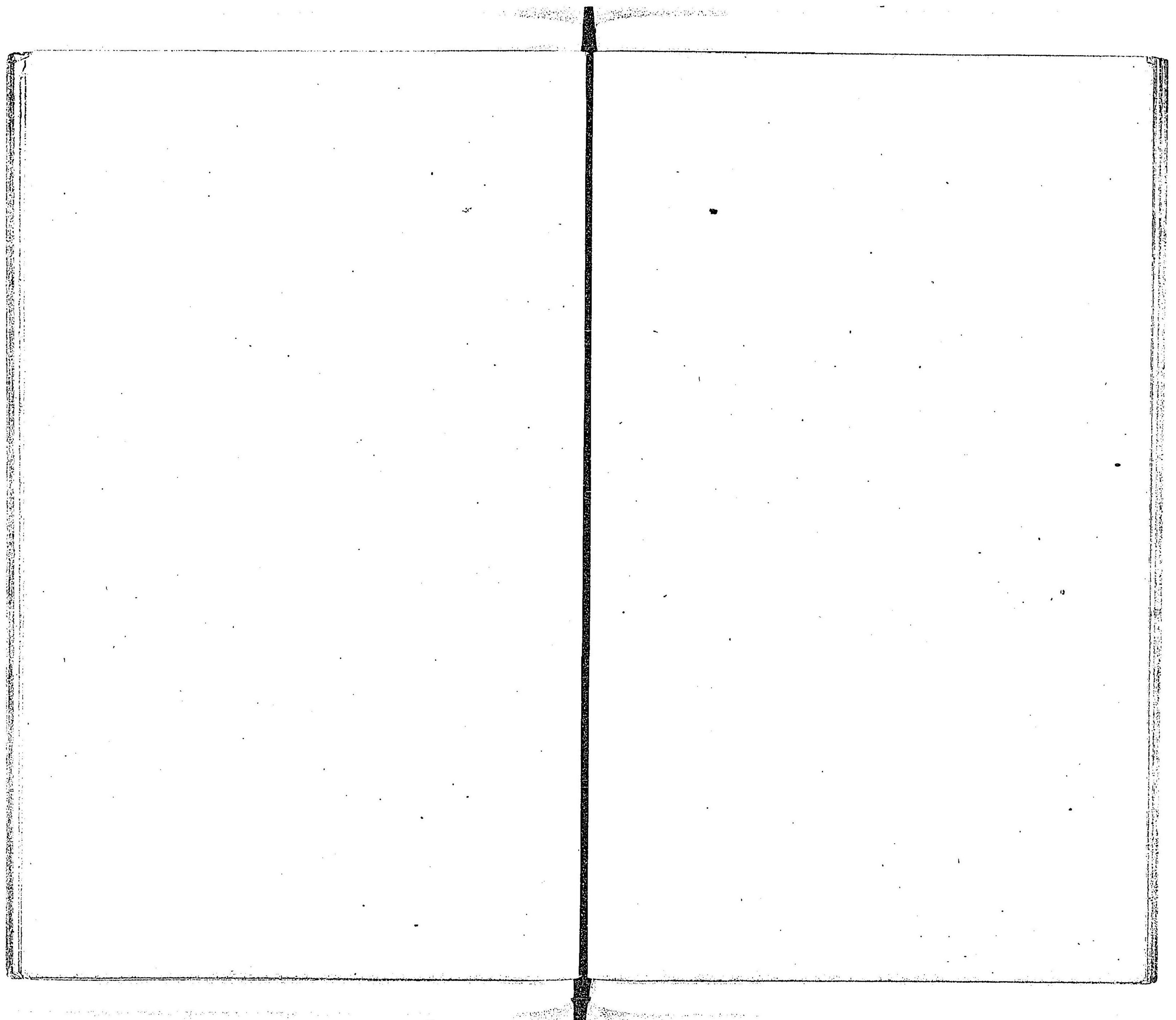


山口俊一編纂

刑
法
問
答
卷
三

明治十三年八月刊行





刑法問答卷之三目錄

第三編 身體財產ニ對スル重罪輕罪

第壹章 身體ニ對スル罪

(自第二百九十二條
至第三百六十五條)

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二百九十二條ヨリ

第二節 毆打創傷ノ罪

第二百九十九條ヨリ

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

第三百九條ヨリ

第四節 過失殺傷ノ罪

第三百十七條ヨリ

第五節 自殺ニ關スル罪

第三百二十條ヨリ

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第三百二十二條ヨリ

第七節 脅迫ノ罪

第三百廿六條ヨリ

第八節 墮胎ノ罪

第三百三十條ヨリ

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百三十六條ヨリ

第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪

第三百四十一條ヨリ

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

第三百四十六條ヨリ

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

第三百五十五條ヨリ

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

第三百六十二條ヨリ

第二章 財産ニ對スル罪

(自第三百六十六條
至第四百二十四條)

第一節 竊盜ノ罪

第三百六十六條ヨリ

第二節 強盜ノ罪

第三百七十八條ヨリ

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪

第三百八十五條ヨリ

第四節 家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條ヨリ

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

第三百九十條ヨリ

第六節 贓物ニ關スル罪

第三百九十九條ヨリ

第七節 放火失火ノ罪

第四百二條ヨリ

第八節 決水ノ罪

第四百十一條ヨリ

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條ヨリ

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四百十七條ヨリ

第四編 違警罪

(自第四百二十五條
至第四百三十三條)

刑法問答卷之三

山口俊一編纂

刑法第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

○豫シメ謀テ人ヲ殺シタル者ハ如何

△謀殺ノ罪トナシ死刑ニ處ス

○毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ如何

△謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

○故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ如何

△故殺ノ罪トナシ無期徒刑ニ處ス

○支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ如何

△死刑ニ處ス

一 ○重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免ガル、爲

メ人ヲ故殺シタル者ハ如何

△死刑ニ處ス

○人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導ノ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ如何
△故殺ヲ以テ論シ無期徒刑ニ處ス其豫シメ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

○謀殺故殺ヲ行ヒ若シ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ如何

△仍ホ謀故殺ヲ以テ論シ各其刑ニ處ス

第二節 毆打創傷ノ罪

○人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ如何

△重懲役ニ處ス若シ其豫シメ謀テ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者或ハ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナルタメ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、タメ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ一等ヲ加フ

○人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者

ハ如何

△輕懲役ニ處ス其豫シメ謀テ毆打創傷シタル者或ハ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナルタメ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ毆打創傷ナシタル者ハ一等ヲ加フ

○人ヲ毆打創傷シ其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘廢シ癡病ニ致シタル者ハ如何

△二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其豫シメ謀テ毆打創傷ナシタル者或ハ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナルタメ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ毆打創傷ナシタル者ハ一等ヲ加フ

○人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムル能ハサルニ至ラシメタル者ハ如何

△一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス其豫シメ謀テ毆打創傷ナシタル者或ハ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナルタメ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ毆打創傷ナシタル者ハ一等ヲ加フ

四

○人ヲ毆打創傷シ其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ如何

△一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス其豫シメ謀テ毆打創傷ナシタル者或ハ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナルヲメ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、タメ毆打創傷ナシタル者ハ一等ヲ加フ

○人ヲ毆打創傷シ其疾病休業ニ至ラスト雖ヒ身体ニ創傷ヲナシタル者ハ如何

△十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

○毆打ニ因テ若シ誤ツテ他人ヲ創傷シタル者ハ如何

△仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

○二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ如何

△其現ニ手ヲ下シ傷ヲナスノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス

○二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ其現ニ手ヲ下シ傷ヲナスノ輕重ニ從ヒ各自ニ其刑ヲ科スト雖ヒ若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルヲ能ハサル時ハ如何

△其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス其教唆者ハ減等ノ限ニアラス

○二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖ヒ幫助シテ傷ヲナサシメタル者ハ如何

△現ニ傷ヲナシタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

○健康ヲ害スヘキ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ如何

△豫シメ謀テ人ヲ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

○人ヲ殺スノ意ニアラスト雖ヒ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ如何

△毆打創傷ヲ以テ論ス

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

○自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シテ其暴行人ヲ殺傷シタル者ハ如何

△本刑ニ照シ其罪ヲ宥恕シテ二等又ハ三等ヲ減ス

五 ○自己ノ不正ノ所爲ニ因リ其身體ニ暴行ヲ受ク直チニ怒ヲ發シ其暴

行人ヲ殺傷シタル者ハ如何

△其不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ其罪ヲ宥恕セス

○毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルヲ能ハサル者ハ如何

△本刑ニ照シテ其罪ヲ宥恕シテ二等又ハ三等ヲ減ス

○本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ如何

△本刑ニ照シ其罪ヲ宥恕シテ二等又ハ三等ヲ減ス

○本夫先キニ其姦夫姦婦ノ姦通ヲ縱容シ其後姦所ニ於テ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ如何

△其罪ヲ宥恕スルノ限ニアラス

○晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スルタメ之ヲ殺傷シタル者ハ如何

△本刑ニ照シ其罪ヲ宥恕シテ二等又ハ三等ヲ減ス

○身體生命ヲ正當ニ防衛シ己ムヲ得サルニ出テ自己ノ爲メ又ハ他

人ノタメニ其暴行人ヲ殺傷シタル者ハ如何

△其罪ヲ論セス

○自己ノ不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キ其身體生命ヲ防衛ヌルタ

メ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ如何

△不論罪ノ限リニアラス

○財産ニ對シ放火其他暴行ヲナスモノヲ防止スルニ於テ己ムヲ得スシテ人ヲ殺傷シタル者ハ如何

△其罪ヲ論セス

○盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ於テ己ムヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ如何

△不論罪トス

○夜間故ナクシテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出テ己ムヲ得スシテ人ヲ殺傷シタル者

ハ如何

八 △不誦罪トス

○身體財産ヲ防衛スルニ出ツルト雖モ已ムヲ得サルニアラシテ
害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乗シテ仍ホ
害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ如何
△不誦罪ニアラスト雖モ其情狀ニ因リ各本刑ニ照シ其罪ヲ宥恕シテ
二等又ハ三等ヲ減スルヲ得

第四節 過失殺傷ノ罪

○疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者
ハ如何

△二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○過失ニ因テ人ヲ創傷シ癱疾又ハ篤疾ニ致シタル者ハ如何

△十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

○過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ如何

△三圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

刑法問答卷之三

山口俊一編纂

刑法第三編

身體財産ニ對スル重罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

○豫シメ謀テ人ヲ殺シタル者ハ如何

△謀殺ノ罪トナシ死刑ニ處ス

○毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ如何

△謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

○故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ如何

△故殺ノ罪トナシ無期徒刑ニ處ス

○支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ如何

△死刑ニ處ス

一 ○重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲

メ人ヲ故殺シタル者ハ如何

△死刑ニ處ス

○人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導ノ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ如何
△故殺ヲ以テ論シ無期徒刑ニ處ス其豫シメ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

○謀殺故殺ヲ行ヒ若シ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ如何

△仍ホ謀故殺ヲ以テ論シ各其刑ニ處ス

第二節 毆打創傷ノ罪

○人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ如何

△重懲役ニ處ス若シ其豫シメ謀テ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者或ハ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナルタメ又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カル、タメ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ一等ヲ加フ

○人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者

ハ如何

△輕懲役ニ處ス其豫シメ謀テ毆打創傷シタル者或ハ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナルタメ又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ毆打創傷ナシタル者ハ一等ヲ加フ

○人ヲ毆打創傷シ其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘虧シ癡病ニ致シタル者ハ如何

△二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其豫シメ謀テ毆打創傷ナシタル者或ハ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナルタメ又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ毆打創傷ナシタル者ハ一等ヲ加フ

○人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムル能ハサルニ至ラシメタル者ハ如何

△一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス其豫シメ謀テ毆打創傷ナシタル者或ハ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナルタメ又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ毆打創傷ナシタル者ハ一等ヲ加フ

四

○人ヲ毆打創傷シ其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ如何

△一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス其豫シメ謀テ毆打創傷ナシタル者或ハ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナルヲタメ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、タメ毆打創傷ナシタル者ハ一等ヲ加フ

○人ヲ毆打創傷シ其疾病休業ニ至ラスト雖モ身体ニ創傷ヲナシタル者ハ如何

△十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

○毆打ニ因テ若シ誤ツテ他人ヲ創傷シタル者ハ如何

△仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

○二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ如何

△其現ニ手ヲ下シ傷ヲナスノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス

○二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ其現ニ手ヲ下シ傷ヲナスノ輕重ニ從ヒ各自ニ其刑ヲ科スト雖モ若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサル時ハ如何

△其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス其教唆者ハ減等ノ限ニアラス

○二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セナト雖モ幫助シテ傷ヲナサシメタル者ハ如何

△現ニ傷ヲナシタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

○健康ヲ害スヘキ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ如何

△豫シメ謀テ人ヲ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

○人ヲ殺スノ意ニアラスト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ如何

△毆打創傷ヲ以テ論ス

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

○自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シテ其暴行人ヲ殺傷シタル者ハ如何

△本刑ニ照シ其罪ヲ宥恕シテ二等又ハ三等ヲ減ス

五

○自己ノ不正ノ所爲ニ因リ其身體ニ暴行ヲ受ケ直チニ怒ヲ發シ其暴

行人ヲ殺傷シタル者ハ如何

△其不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ其罪ヲ宥恕セズ

○毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルヲ能ハサル者ハ如何

△本刑ニ照シテ其罪ヲ宥恕シテ二等又ハ三等ヲ減ス

○本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ如何

△本刑ニ照シ其罪ヲ宥恕シテ二等又ハ三等ヲ減ス

○本夫先キニ其姦夫姦婦ノ姦通ヲ縱容シ其後姦所ニ於テ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ如何

△其罪ヲ宥恕スルノ限ニアラス

○晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スルタメ之ヲ殺傷シタル者ハ如何

△本刑ニ照シ其罪ヲ宥恕シテ二等又ハ三等ヲ減ス

○身體生命ヲ正當ニ防衛シ己ムヲ得サルニ出テ自己ノ爲メ又ハ他

人ノタメニ其暴行人ヲ殺傷シタル者ハ如何

△其罪ヲ論セス

○自己ノ不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キ其身體生命ヲ防衛スルタメ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ如何

△不論罪ノ限リニアラス

○財産ニ對シ放火其他暴行ヲナスモノヲ防止スルニ於テ己ムヲ得スシテ人ヲ殺傷シタル者ハ如何

△其罪ヲ論セス

○盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ於テ己ムヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ如何

△不論罪トス

○夜間故ナクシテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出テ己ムヲ得スシテ人ヲ殺傷シタル者

ハ如何

八 八、不論罪トス

○身體財産ヲ防衛スルニ出ツルト雖モ已ムヲ得サルニアラスシテ
害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シテ仍ホ
害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ如何
△不論罪ニアラスト雖モ其情狀ニ因リ各本刑ニ照シ其罪ヲ宥恕シテ
二等又ハ三等ヲ減スルヲ得

第四節 過失殺傷ノ罪

○疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者
ハ如何

△二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○過失ニ因テ人ヲ創傷シ癱疾又ハ篤疾ニ致シタル者ハ如何

△十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

○過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ如何

△二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節 自殺ニ關スル罪

○人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下
シタル者ハ如何

△六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス

○人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノタメニ手ヲ下
サスト雖モ其他ノ補助ヲナシタル者ハ如何

△其教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノタメニ手ヲ下シ
タル者ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス

○己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ如何
△重懲役ニ處ス

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

○擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ於テ監禁シタル者ハ如何

九 △十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス其監禁日數十日ヲ過ル時ハ十日毎ニ一等ヲ加フ

○擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ如何

△二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタルニ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ如何

△毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際ニ當リ若シ其監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ如何

△毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第七節 脅迫ノ罪

○人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火セント脅迫シタル者或ハ親屬ニ此害ヲ加フヘキコトヲ以テ脅迫シタル者ハ如何

△一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ兇器ヲ持シテ脅迫シタル者ハ一等ヲ加フ其脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

○毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セメント脅迫シ或ハ親屬ニ此害ヲ加フヘキ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ如何

△十一月以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ兇器ヲ持シテ脅迫シタル者ハ一等ヲ加フ其脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ乃チ其罪ヲ論ス

第八節 墮胎ノ罪

○懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ如何

△一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

○藥物其他ノ方法ヲ以テ懷胎ノ婦女ヲ墮胎セシメタル者ハ如何

△一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

○藥物其他ノ方法ヲ以テ懐胎ノ婦女ヲ墮胎セシメ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ如何

△一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

○醫師穩婆又ハ藥商等藥物其他ノ方法ヲ以テ懐胎ノ婦女ヲ墮胎セシメタル者ハ如何

△凡人ノ刑ニ各一等ヲ加フ

○懐胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ如何

△一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

○懐胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメ因テ婦女ヲ癡篤疾ニ致シ又ハ死ニ致シタル者ハ如何

△毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○懐胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ如何

△二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ其墮胎セシムルノ意ニ出テ

毆打シ其他暴行ヲ加ヘ墮胎セシメタル者ハ輕懲役ニ處ス因テ婦女

ヲ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從

テ處斷ス

○懐胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ婦女ヲ癡篤疾

又ハ死ニ致シタル者ハ如何

△毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

○八歳ニ滿タサル幼者ヲ遺棄シタル者ハ如何

△二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

○給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養スヘキ者其八歳ニ滿タサル幼者ヲ遺棄シタル者ハ如何

△凡人ノ刑ニ一等ヲ加フ

○八歳ニ滿タサル幼者又ハ老疾者ヲ寥闕無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ

如何

△四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

○給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養スヘキ者其八歳ニ滿タサル幼者又ハ老疾者ヲ寒飢無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ如何

△凡人ノ刑ニ一等ヲ加フ

○幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癡疾ニ致シタル者ハ如何

△輕懲役ニ處ス

○幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ篤疾ニ致シタル者如何

△重懲役ニ處ス

○幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ死ニ致シタル者如何

△有期徒刑ニ處ス

○自己ノ所有地又ハ看守スヘキ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルコトヲ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者如何

△十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

○自己ノ所有地又ハ看守スヘキ地内ニ若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者ア

ルコトヲ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ如何

△十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪

○十二歳ニ滿タサル幼者ヲ略取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ如何

△二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

○十二歳以上二十歳ニ滿タサル幼者ヲ略取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ如何

△一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

○十二歳以上二十歳ニ滿タサル幼者ヲ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者如何

△六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス其被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

○罽取誘拐シタル幼者ナルコトヲ知テ自己ノ家屬僕婢トナシ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ如何

△其罽取誘拐シタル各例(刑法三百四十一條)全三百四十二條ニ照シ各一等ヲ減ス其被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

○罽取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲナシタル時ハ如何

△罽取誘拐ノ罪ハ其被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スト雖モ其被害者式ニ從テ更ニ婚姻ヲナシタルキハ告訴ノ效ナシ故ニ其罪ヲ論シス

○二十歳ニ滿タサル幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者如何

△輕懲役ニ處ス

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

○十二歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲナシ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲナシタル者如何

△一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

○十二歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲナシ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲナシ若シ因テ死傷ニ致シタル者ハ如何

△毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○十二歳ニ滿タサル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲナシタル者ハ如何

△二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

○十二歳ニ滿タサル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲナシ若シ因テ死傷ニ致シタル者ハ如何

△毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ如何

△輕懲役ニ處ス其被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

○十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シ若シ因テ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ如何

△癡篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ若シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

○藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ如何

△強姦ヲ以テ論ス其被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

○藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シ若シ因テ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ如何

△癡篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタルモノハ無期徒刑ニ處ス

○十二歳ニ滿タサル幼女ヲ姦淫シタル者ハ如何

△輕懲役ニ處ス其被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

○十二歳ニ滿タサル幼女ヲ姦淫シ若シ因テ死傷ニ致シタル者ハ如何

△毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○十二歳ニ滿タサル幼女ヲ強姦シタル者ハ如何

△重懲役ニ處ス其被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

○十二歳ニ滿タサル幼女ヲ強姦シ因テ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ如何

△癡篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

○十六歳ニ滿タサル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ如何

△一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

加ス

○有夫ノ婦姦通シタル者ハ如何

△六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其本夫ノ告ケルヲ待テ其罪ヲ論ス

〇有夫ノ婦タルコトヲ知テ姦通シタル姦夫ハ如何

△姦婦ノ刑ニ同シ其本夫ノ告クルヲ待テ其罪ヲ論ス

〇配偶者アルモノ重テ婚姻ヲナシタル者ハ如何

△六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

〇不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ如何

△偽証ノ罪例(刑法二百二十條ヲ指ス)ニ照シテ處斷ス

〇誣告ヲナシタル者未タ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ如何

△本刑ヲ免ス

〇誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ其誣告者ハ如何

△被告人誣告ノタメニ處セラレタル其刑ニ反坐ス(刑法二百二十一條二百廿二條ヲ指ス)

〇惡事醜行ヲ摘發シ公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ如何

△其事實ノ有無ヲ問ハス十一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待

テ其罪ヲ論スト雖モ若シ死者ヲ誹毀シタル者ニ係ル時ハ其誣罔ニ出テタルニ非ラサレバ此例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス

〇惡事醜行ヲ摘發シテ書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作為シテ人ヲ誹毀シタル者ハ如何

△其事實ノ有無ヲ問ハス十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スト雖モ若シ死者ヲ誹毀シタル者ニ係ル時ハ其誣罔ニ出テタルニ非ラサレバ此例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス

〇醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知り得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ如何

△誹毀ヲ以テ論シ十一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十

圓以下ノ罰金ヲ附加ス其被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

○醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知り得タル陰私ヲ裁判所ノ呼出チ受ケテ事實ヲ陳述スル爲メ漏告シタル者ハ如何

△其罪ヲ論スルノ限ニアラス

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

○子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ如何

△死刑ニ處ス

○子孫其祖父母父母ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ其囑託ヲ受ケテ爲メ手ヲ下シタル者ハ如何

△自殺ニ關スル罪ニ定ムル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ

○子孫自己ノ利ヲ圖リ其祖父母父母ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ如何

△自殺ニ關スル罪ニ定ムル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ

○子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀

ノ罪ヲ犯シタル者ハ如何

△各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ其癡篤疾又ハ死ニ致シタル罪ハ此例ヲ用ヒス

○子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷シ其他監禁遺棄ノ罪ヲ犯シ因テ癡篤疾ニ致シタル者ハ如何

△廢疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

○子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷シ其他監禁遺棄ノ罪ヲ犯シ因テ死ニ致シタル者ハ如何

△死刑ニ處ス

○子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ如何

△十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

○子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ欲キタルニ因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ如何

△癡疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

○子孫其祖父母父母ニ對スル殺傷ノ罪ト雖モ特別ノ宥恕及ヒ不諭罪ノ例ヲ用フルコトヲ得ル也

△其子孫犯ス時知ラサル者ノ外更ニ其例ヲ用フルコトヲ得ス

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

○人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ如何

△竊盜ノ罪トナシ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス其二人以上共ニ犯シタル者ハ一等ヲ加フ

○人ノ所有物ヲ竊取センドシテ未ダ遂ケサル者ハ如何

△未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ如何

△六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス其二人以上共ニ犯シタル者ハ一等ヲ加フ

○水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ行フト雖モ未ダ遂ケサルモノハ如何

△未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○門戸牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ如何

△六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス若シ二人以上共ニ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

○門戸牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り已ニ竊盜ヲ行フト雖モ未ダ遂ケサルモノハ如何

△未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタルモノハ如何

△輕懲役ニ處ス

○自己ノ所有物ヲ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ如何

△自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付シタル物又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

○田野ニ於テ穀類菜果其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ如何

△一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○田野ニ於テ穀類菜果其他ノ產物ヲ竊取セントシテ已ニ竊盜ヲ行フト雖モ未タ其事ヲ遂サル者ハ如何

△未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ

人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ如何

△一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ如何

△二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取セントシテ未タ遂ケサル者ハ如何

△未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ如何

△竊盜ヲ以テ論スルノ限ニアラス

○祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取スルニ若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ如何

△親屬(刑法三百七十七條ノ親屬ヲ指ス)

且ニ其財物ヲ竊取スルハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニアラスト雖モ若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ

以テ論ス

第二節 強盜ノ罪

○人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ如何

△強盜ノ罪トナシ輕懲役ニ處ス

○人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者若シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ如何

△六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○二人以上共ニ強盜ヲ犯シタルキ又ハ兇器ヲ攜帶シテ犯シタル時ハ如何

△一個毎ニ一等ヲ加フ

○二人以上共ニ強盜ヲ犯シタル時又ハ兇器ヲ攜帶シテ犯シタル時若シ減輕スヘキニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ如何

△六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○強盜人ヲ傷シタル者ハ如何

△無期徒刑ニ處ス

○強盜人ヲ死ニ致シタル者ハ如何

△死刑ニ處ス

○強盜ヲ犯シ因テ婦女ヲ強姦シタル者ハ如何

△無期徒刑ニ處ス

○竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒クタメ臨時暴行脅迫ヲナシタル者ハ如何

△強盜ヲ以テ論ス

○竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒クタメ臨時暴行脅迫ヲナシタル者若シ減輕スヘキニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ如何

△其輕罪ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメ其財物ヲ盜取シタル者ハ如何

△強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス

○藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメ其財物ヲ盜取シタル者若シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ如何

○三

△六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪

○遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ如何

△十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隱匿シタル者ハ如何

△十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾ヒ得テ之ヲ隱匿シ又ハ他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ之ヲ隱匿シタル者祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹等ニ係ル時ハ如何

△其罪ヲ論セス

第四節 家資分散ニ關スル罪

○家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ如何

△二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

○家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加スルノ情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲナシタル者ハ如何

△本犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

○家資分散ノ際牒簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後其債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者如何

△一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

○人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ証書類ヲ騙取シタル者ハ如何

△二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ証書類ヲ騙取セントシテ未ダ

一三

遂ケサルモノハ如何

△未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ証書類ヲ騙取シタル者其祖父
母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹ニ係ル時ハ如何
△其罪ヲ論セス

○人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ証書類ヲ騙取シ因テ官私ノ文
書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ如何
△偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ証書類ヲ騙取シ因テ官私ノ文
書ヲ偽造シ又ハ増減變換セントシテ未タ遂ケサル者ハ如何

△未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ証
書類ヲ授與セシメタル者ハ如何

△詐欺取財ヲ以テ論ス未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷

ス

○幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ証
書類ヲ授與セシメタル者若シ其祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者
又ハ同居ノ兄弟姉妹ニ係ル時ハ如何

△其罪ヲ論セス

○物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ
人ニ交付シタル者ハ如何

△詐欺取財ヲ以テ論ス未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷
ス

○物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ
人ニ交付シタル者其祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ
兄弟姉妹ニ係ル時ハ如何

△其罪ヲ論セス

○他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物トナシタル

者ハ如何

△詐欺取財ヲ以テ論ス

○他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物トナシテ未ダ遂ケサル者ハ如何

△未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物トナシタル者其祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹ニ係ル時ハ如何

△其罪ヲ論セス

○自己ノ不動産ヲ已ニ抵當典物トナシタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重子テ抵當典物トナシタル者ハ如何

△詐欺取財ヲ以テ論ス其未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○自己ノ不動産ヲ已ニ抵當典物トナシタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ

タル者若シ其祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹ニ係ル時如何

△其罪ヲ論セス

○受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ消費シタル者ハ如何

△一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

○受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消セシトシテ未ダ遂ケサル者ハ如何

△未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者其祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹ニ係ル者ハ如何

△不論罪トス

○自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタ

ル者ハ如何

△一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス其家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ仍ホ家資分散ノ際犯シタル例(刑法三百八十條ヲ指ス)ニ照シテ處斷ス

○自己ノ所有ニ係ル官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏セントシテ未タ遂ケサル者ハ如何

△未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第六節 贓物ニ關スル罪

○強竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲナシタル者ハ如何

△一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲナシタル者ハ如何

△十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

第七節 放火失火ノ罪

○火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ如何

△死刑ニ處ス

○火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ如何

△無期徒刑ニ處ス

○火ヲ放ツテ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯ル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ如何

△重懲役ニ處ス

○火ヲ放テ人ヲ乘載セル船舶汽車ヲ燒燬シタル者ハ如何

△死刑ニ處ス

○火ヲ放テ人ヲ乘載セサル船舶汽車ヲ燒燬シタル者如何

△重懲役ニ處ス

○火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物

件ヲ燒燬シタル者ハ如何

△輕懲役ニ處ス

○火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ如何

△二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ總テ監視ニ付スルヤ

△六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

○火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ如何

△二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○火藥其他激發スヘキ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家

屋財産ヲ毀壞シタル者ハ如何

△其故意ニ出ツルト過失トナ分チ放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第八節 決水ノ罪

○堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ如何

△無期徒刑ニ處ス

○堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ如何

△重懲役ニ處ス

○堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ如何

△輕懲役ニ處ス

○他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ルヲメ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ如何

△一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス

○過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ如何

△失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

○衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆没セシメタル者ハ

如何

△死刑ニ處ス

○衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載シタル船舶ヲ覆没シタルニ若シ船中死亡ナキ時ハ如何

△無期徒刑ニ處ス

○衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載セサル船舶ヲ覆没シタル者ハ如何
△輕懲役ニ處ス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

○人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ如何

△一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタルニ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ如何

△毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾又ハ田圃樊圃牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ如何

△十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ如何

△十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

○土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ如何
△一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ如何

△十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

○人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ如何

△一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○人ノ牛馬ヲ除クノ外其他ノ家畜ヲ殺シタル者ハ如何

△二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

○人ノ權利義務ニ關スル証書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ如何

△二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

刑法問答三編 終

第四編 違警罪

○規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂スヘキ物品ヲ市街ニ運搬シタル者ハ如何

△三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂スヘキ物品又ハ自ラ火ヲ發スヘキ物品ヲ貯藏シタル者ハ如何

△三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者ハ如何
△三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者ハ如何

△三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ

科料ニ處ス

○蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ違背シタル者ハ如何

△三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○官署ノ督促ヲ受ケテ崩壊セヨトスル家屋牆壁ノ修理ヲナサ、ル者ハ如何

△三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○官許ヲ得ヌシテ死屍ヲ解剖シタル者ハ如何

△三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○自己ノ所有地内ニ於テ死屍アルコトヲ知テ官署ニ申告セズ又ハ他所ニ移シタル者ハ如何

△三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者ハ如何

△三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○密ニ賣淫ヲナシ又ハ其媒合容止ヲナシタル者ハ如何

△三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者ハ如何

△三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○定マリタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者ハ如何

○科料ニ處ス

△三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス